平成２８年度
武道等指導充実・資質向上支援事業
実践事例報告集

平成２９年１１月

スポーツ庁政策課学校体育室

本実践事例報告集の活用について

本実践事例報告集は、スポーツ庁が平成２８年度の「武道等指導充実・資質向上支援事業」の成果を全国各地での取組の参考にしていただくため、委託先の各教育委員会から提出された実践研究結果をとりまとめたものです。特に、地域の指導者の協力を得て、指導の充実や安全に配慮した指導方法の工夫などに取り組もうとしている学校での活用を期待します。

目 次

１．実践事例

【柔道】

・地域の外部指導者と教育委員会及び学校が連携することで、安全面に留意しながら柔道授業に取り組んだ実践例
千歳市立北斗中学校（北海道）・・・・・・・・・・2

・専門的な知識の豊富な外部講師と連携し、教員の授業力アップと、安全な授業作りを目指した実践例
八千代市立阿蘇中学校（千葉県）・・・・・・・・・4

・地域の指導者による体力向上実技研修会を開催し、教員の指導力を高めた実践例
京都府教育委員会（京都府）・・・・・・・・・・・6

・本物に触れる授業（オリンピアン招致授業と継続した地域スポーツ人材との連携でより安全で効率的かつ話合い活動の充実を図った授業実践）
江津市立江津中学校学校（島根県）・・・・・・・・8

・外部指導者との連携による教員の指導力を高めた実践例
伊万里市立啓成中学校（佐賀県）・・・・・・・・・１０

・女子生徒１名の極小規模校（離島）に柔道の女性指導者を派遣し、保健体育担当教諭の指導力向上を図った例
西海市立平島中学校（長崎県）・・・・・・・・・１２

・地域の武道指導者の協力を得て、生徒の実態に即した指導を行い、基本動作と基本となる技の習得を図った実践例
綾町立綾中学校（宮崎県）・・・・・・・・・・・１４

・保健体育科教員と地域の指導者との連携によるＴＴで、安全を確保しながらのより専門的な指導（礼法、体さばき、技の紹介等）により、基礎的･基本的な技能の習得を図った実践例
宮崎県立赤江まつばら支援学校（宮崎県）・・・１６

【剣道】

・高等学校教員との連携を通して、剣道の特性に関心をもたせ、基本動作を身に付けさせる授業の実践例
大仙市立大曲南中学校（秋田県）・・・・・・・・１８

・専門性の高い指導者と連携した授業により、生徒の武道に関する関心、意欲を高めた実践例
いわき市立川部中学校（福島県）・・・・・・・・２０

・外部指導者による、基礎・基本安全に配慮した剣道の授業づくりの研修会で、教員の指導力向上をめざした実践例
高石市（大阪府）・・・・・・・・・・・・・・・２２

・男女共習による剣道の授業作りに関して大学准教授に指導を受けた事例
和歌山県立那賀高等学校（和歌山県）・・・・・２６

・地域スポーツ指導者との連携による武道授業の在り方
下関市立内日中学校（山口県）・・・・・・・・・２８

・基本動作と基本となる技の効率的な習得に向けた剣道授業の実践例
大洲市立河辺中学校（愛媛県）・・・・・・・・・３０

・地域の武道指導者と教員とが協力し、専門的な指導によって生徒の剣道に対する関心を深め、基礎的・基本的な技能の習得を図った実践例
串間市立都井中学校（宮崎県）・・・・・・・・・３２

【柔道・剣道】
・外部指導者と、目標や生徒の状況の理解、授業内容・方法の確認等を円滑に行った事例
岩手県教育委員会（岩手県）・・・・・・・・・・３４
【柔道・剣道・ダンス】
・武道・ダンス実技指導者講習会、柔道安全指導者講習会をとおして保健体育科教員の資質・指導力向上を図る取組
埼玉県教育委員会（埼玉県）・・・・・・・・・・３６
【相撲】
・楽しく安全な武道の授業を目指して
能登町立能都中学校（石川県）・・・・・・・・・３８
・地域の特色・人材を生かした「相撲」授業の取組
萩市立田万川中学校（山口県）・・・・・・・・・４０
【空手道】
・地域の指導者の技術指導により、教員の指導力を高め、生徒の武道に対する意識を変容させた実践例
築上町立築城中学校（福岡県）・・・・・・・・・４２
【なぎなた】
・礼法を通して人間性の高まりを目指した「なぎなた」授業の在り方
琴平町立琴平中学校（香川県）・・・・・・・・・４４
【ダンス】
・中央講師を招へいし、ダンスについて「楽しく効果的な指導の在り方と授業づくり」についての講習会により、教員の指導力を高めた実践例
山形県教育委員会（山形県）・・・・・・・・・・４６
・地域の指導者との連携で技術指導を充実させた実践
新城市立鳳来中学校（愛知県）・・・・・・・・・４８
・外部指導者を活用し、創作ダンスの指導力を高めた授業実践例
武雄市立武雄北中学校（佐賀県）・・・・・・・・５０
【その他】
・体育、保健体育科を指導する教員の資質向上・指導力強化を目指した取組
茨城県教育委員会（茨城県）・・・・・・・・・・５４
・体育専科教員を中心とした組織的・系統的・効率的な体育授業の実践例
渋川市立渋川西小学校（群馬県）・・・・・・・・５６
・小中連携、地域の大学との連携で教員の指導力の向上や運動きらいの子どもを減らすことができた実践例
高崎市立南八幡中学校（群馬県）・・・・・・・・５８
・外部指導者と連携した体つくり運動の指導の実践例
佐賀市立金立小学校（佐賀県）・・・・・・・・・６０

２．参考資料

武道必修化に伴う武道の安全管理の徹底について（依頼）（平成２９年６月２０日付け事務連絡）・・・・６６

１．実践事例

地域の外部指導者と教育委員会及び学校が連携することで、安全面に留意しながら柔道授業に取り組んだ実践例	学校名　千歳市立北斗中学校（北海道）第１学年 全校生徒数　３１３名（男子１６１名　女子１５２名） 種目等　武道（柔道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０１２３（２２）４１５１ 学校ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　jh-hokuto.a@ed.city.chitose.hokkaido.jp

1　実践研究のねらい

安全で充実した柔道授業の実施に向けて、「平成 28 年度武道等指導充実・資質向上支援事業」を活用し、外部指導者と市教育委員会が連携した指導体制等を整備するとともに、生徒が柔道の特性を理解し、礼法や所作を正しく身につけて安全に練習し、柔道の楽しさを味わう。

2　実践研究の概要

（1）課題について

・外部指導者との連携体制の確立及び安全に配慮した施設・設備の充実

・安全に配慮した柔道授業の指導内容や指導方法の改善・充実

（2）期待される成果（仮説）について

・安全に配慮し、環境面で優れた施設を使用することにより、生徒の学習意欲が高まり、武道への関心を高め、技能の向上を図ることができる。

・柔道を学習することにより、相手を尊重したり自分を律したりする態度を育成する。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）千歳市総合武道館の使用

①市内の柔道授業を実施する中学校は、市の武道館を使い授業を行っている。

※平成 24 年開校の勇舞中学校は校内に武道場があるため自校で実施

（2）外部指導者との打合せ時間の確保

①事前に市教委と柔道連盟が打合せを行い、「千歳市の安全な柔道授業の進め方（マニュアル）」及び指導資料を作成した。

②授業前の時間を活用し、本時のねらいと事故の未然防止等について、ポイントや役割分担を確認した。

（3）安全面に配慮した段階的な指導

①外部指導者の助言により、オリエンテーションの内容の充実を図り、安全に配慮した。

②生徒の体力差や技能の習得状況を踏まえ、易しい技から難しい技を習得するといった段階的な指導を行い、学習内容の確実な定着を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　授業前の健康観察により、生徒の健康状態を把握するとともに、爪の長さや装飾品の有無、柔道着の正しい着用の仕方などの指導を徹底した。

2　ルールや禁止事項の徹底を図り、武道場の安全を確認しながら指導した。

3　生徒が同時に活動する場合、活動場所の配置や十分なスペースの確保に留意した。

○成果の意義と今後の課題

1　外部指導者の協力により、安全面に配慮した段階的な指導をすることができた。また、専門的な知識・技能をもつ外部指導者との複数体制による指導により、教員の指導技術力の向上が図られた。

2　自己評価シートを活用し、外部指導者と効率的に打合せを行うことにより、授業改善を図ることができた。また、生徒は、見通しをもち習得状況を把握しながら、意欲的に取り組むことができた。

3　市の武道館を使用しているため施設設備の環境は整っている。今後も、外部指導者の助言を参考に、武道館の安全管理や有効活用について充実を図る。

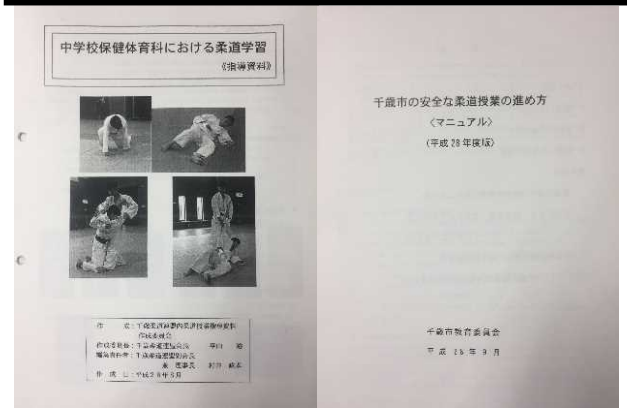
○ 研究内容

【授業のねらい等の打合せ】
授業のねらいと事故防止のポイントの確認

【安全面に配慮した指導】
健康調査の実施とけがの防止について指導

【外部指導者による実践指導】
外部指導者と教員が組んで実践指導

【マニュアル及び指導資料の作成】
授業における安全確認項目や事故対応方法を記載



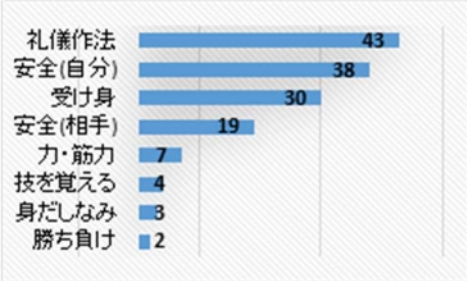
柔道授業についての事前･事後アンケートより（対象：1年生）

○【柔道に対するイメージと実際】

「事前」
- 痛そう
- ケガしそう
- 柔道着が恥ずかしい
- 投げられるが嫌だ
- どうしてやるのかわからない

「事後」
- 思ったより痛くない
- 受け身が結構楽しい
- 礼儀の大切さがわかった
- もっと試合がしたい
- 受け身をしてもやっぱり痛かった
- 先生の説明がわかりやすかった

○【柔道の授業で大切だと感じたこと】



【平成 28 年度武道等指導充実・資質向上支援事業の成果を生かして】
より安全で充実した柔道授業を目指して～外部指導者の活用の有効性から～

- 高い専門性をもつ外部指導者と連携を図り、生徒の技能に応じた段階的な指導を行うことにより、安全を確保した上で、基礎的な技術を習得することができた。
- 事前に千歳市教育委員会と柔道連盟が打合せを持ち、授業の進め方や授業前の安全確認項目、事故発生時の対応方法等を掲載したマニュアルを作成することで、安全に配慮した指導方法等について、外部指導者と体育科教員の共通認識をもつことができた。
- 外部指導者からの助言を生かし、武道場の安全管理や有効活用について一層の充実を図っていく必要がある。

専門的な知識の豊富な外部講師と連携し、教員の授業力アップと、安全な授業作りを目指した実践例

学校名　八千代市立阿蘇中学校（千葉県）1,2年
全校児童生徒数　198名（男子114名　女子84名）
種目等　武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号　０４７（４８８）３００４
学校メールアドレス Kaso@yachiyo.ed.jp

1　実践研究のねらい
（1）日本の伝統的な考え方や行動様式（礼法）の習得を通して、相手を敬う心、思いやりや感謝の気持ちを育成する。
（2）外部講師の専門的な知識・技能を生かし、安全な授業を目指す。
2　実践研究の概要
（1）課題について
外部講師と協議し、専門的な競技の特性を指導しつつ、ケガなく安全な授業にしていくためには、どのように授業を進めていけばよいか。
（2）期待される成果（仮説）について
授業開始前に、外部講師から保健体育科教員へ、授業で行う技の指導の仕方や練習方法を学ぶことができ、教員側も専門的な知識・技能を習得できるとともに、生徒が安全に授業を行うことのできる授業力アップにつながると考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
（1）夏季休業中に外部指導者とともに、柔道の授業の進め方、練習方法等、共通理解する場を設けた。また、授業で行う実技も体験し、教員の技能向上を図った。
全体的な指示は教員が行い、技の模範やポイントなどは外部講師が行うなど、役割を明確にして授業展開をした。
（2）研修会参加
①保健体育科は千葉県や八千代市教育委員会が行う研修などに積極的に参加し、自身の研究・修養に取り組んだ

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　マットの敷詰めは、全員で協力して行った。敷詰めが終わり、生徒が柔道着に着替えている中、教員は敷詰め方が甘くないか（隙間がないか）細かくチェックした。
2　「頭部を打たない、打たせない」ための受け身と引き手の習得を重視。受け身は、授業初めに毎時間必ず取り組んだ。
3　手足の爪の安全・衛生管理。ヘアピンの禁止等、安全を確保するための学習のきまりを徹底した。

○成果の意義と今後の課題

1　専門的な指導者の的確な指導・助言を受けることで、礼法の行い方はもちろん、成り立ちまでも丁寧に教えていただき、伝統的な行動様式の習得を図ることができた。
2　今後も継続して、安全に柔道ができる環境整備を進めること。

○ 研究内容

【伝統的な礼儀作法】

毎時間、はじめと終わりのあいさつで行う。

【基本動作の習得】

安全面に留意し、受け身など重要なものは反復して行った。

【講師による手本】

講師による手本により、正しい技の成り立ちがわかる。

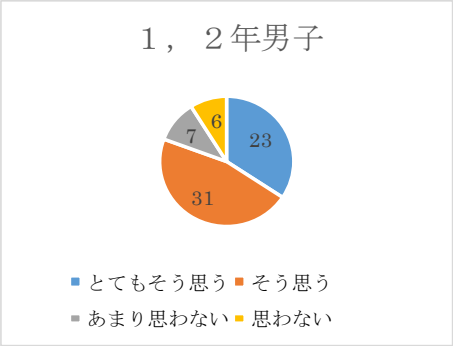
【技練習】

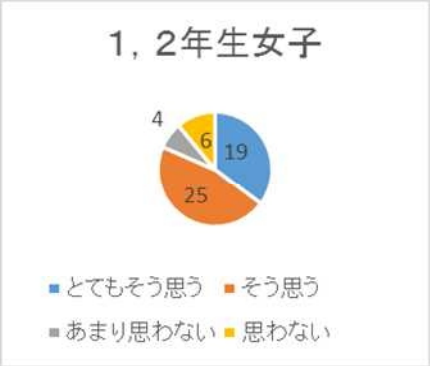
ミニ試合などを設けることで、生徒は意欲的に取り組んだ。

また、外部講師と教員で見る場所を分担し、効率よく指導できた

【アンケート①：今後も柔道の学習をやってみたいか】

「痛そうだけど、そうでもない」「実際にやってみると楽しい」等，またやってみたいという感想が多い。好意的でない意見には，「怖い」「準備が大変」等が多く，授業準備の工夫をしていく必要があると感じた。





【外部指導者と保健体育科教員との連携】

柔道部が部活として設置されていない本校としては、生徒の「柔道」に対してのファーストコンタクトは非常に大切なものである。多くの生徒が抱いている印象はあまりいいものではない。そのような中、専門的知識の高い外部指導者とともに、その印象を払拭する、ユーモアあふれる授業づくりをし、堅苦しい印象を噛み砕きながらもしっかりと、伝統や専門的知識の伝達ができた授業が展開できたのは極めて大きい成果だと感じる。安全面からも多くの目と手で生徒の活動を見守ることは大切なことである。

地域の指導者による体力向上実技研修会を開催し、教員の指導力を高めた実践例	京都府教育委員会 種目等　柔道 （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０７５（４１４）５８６７ hoken@kyoto-be.ne.jp

１　実践研究のねらい

（１）「けが」をさせないよう「安全で、楽しく、効果の上がる」授業の実現

（２）京都府柔道連盟との連携

２　実践研究の概要

○実技研修会と研究協議

本府保健体育科主任会議のアンケートによれば、安全管理徹底のため「受け身」及び「固め技」中心の授業展開が多い。本府の中学校柔道授業における「けが」の統計では、年々事故数や全治１ヶ月以上の重災害事故は大幅に減少してきているが、全体の事故数の 20%～40%が固め技での事故となっている。

京都府柔道連盟（副理事長・理事）の協力を得て、これまで投げ技の指導に加え、固め技にも重点においた内容とした。更に、参加者による研究協議の時間を設け、「柔道指導の手引き（三訂版）」に基づき情報交換するとともに、柔道連盟講師による個別の指導も実施した。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）実技研修会での指導内容

固め技は初心者でも確実に技術が身につき、投げ技よりも速い段階で乱取りができる。固め技は、お互いの体をぶつけ合いながら相手を制する場面があり、生徒は喜んで活動する。しかし、同時に身体接触が多く、激しい動きになりやすい。

①固め技で多く見られる「危険な状態」と「指導のポイント」

②技別に見た「危険な状態」と「指導のポイント」

（２）研究協議の充実

柔道指導の手引きの活用、伝統文化への理解、固め技の指導法

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）すべきこと

固め技について以下の点を徹底する。

①相手をかばいながら制すること（お互いに痛さを感じないような動作で合理的な力の発揮）

②「全力でも七割」の原則（最初から善良で行うと危険が生じる）

③「痛い」時の意思表示の仕方（強い痛みを感じた場合は、「痛い」と発声するか、相手や畳を２回以上たたいて相手に意思表示）

○成果の意義と今後の課題

平成 28 年度は固め技による事故報告が減少した。今後は、合理的な力の発揮による固め技のかけ方、逃げ方について指導方法の研究が必要である。また、安全管理を重視するが故に楽しさや運動量が低下しないよう工夫が必要である。

研究内容

【伝統的な文化の習得】

武道を学習する意義について講義

【段階的な基本動作の指導】

安全面への配慮から受け身の動作習得の徹底

【固め技の指導】

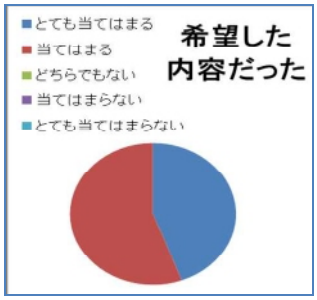
相手をかばいながら制する動作の習得

【固め技の危険な状態】

固め技における安全確保のポイントの徹底

【受講者の満足度の向上】

受講者に事前アンケートを実施し、受講希望内容を講師が把握



○＜事前＞女子の授業で取り入れやすい連続技、固め技の安全な指導方法、返し技、長座からの固め技の試合の留意点を教えていただきたい。

○＜事後＞来週から固め技の指導を実施するところでしたので、大変参考になりました。柔道の奥深さを垣間見えた気がしました。

【指導と評価の一体化について】

実技研修会を活用した研究協議の在り方について

安全で効果的な指導を目指し実技研修会を実施しているわけだが、指導した内容を生徒が十分理解し実現できているか評価し、授業者の指導の工夫改善に生かす為に、柔道授業での評価活動について実技研修会での内容に加えることが必要である。

本府の中学生の体力向上にむけた、柔道授業に即したプログラムの開発が課題である。

本物に触れる授業（オリンピアン招致授業と継続した地域スポーツ人材との連携でより安全で効率的かつ話合い活動の充実を図った授業実践）

学校名　江津市立江津中学校学校（島根県）
全校生徒数　227 名（男子 113 名　女子 114 名）
種目等　柔道
電話番号　０８５５－５２－２０６８
学校メールアドレス　gochu@gotsu-area-network.net

1　実践研究のねらい
（1）オリンピアン招致授業を行うことにより、柔道に対する生徒の興味や関心、技能を高める。
（2）より安全で効率的な柔道の授業実践のために、授業者と地域指導者の連携を深める。
（3）３年間を見通した授業計画を実施することで、より安全な授業の展開や高い技能の習得ができる。
2　実践研究の概要
（1）より安全に授業の展開ができる工夫と手立て
　体育の年間指導計画で柔道の単元は、各学年１５時間で、３年間を見通した指導計画で展開している。加えて、学年毎に２時間の校内柔道大会を実施している。１年生においては、柔道の経験をした生徒はほとんどいない。また、２・３年生においても、技能の習得の差は大きく、帯の結び方や受け身を忘れている生徒がいる。そのような生徒に安全でより細かい丁寧な指導対応をしていく上では、複数での指導、そして、専門的知識を持ち、資格を持っている授業協力者が重要となる。さらに、今年度もオリンピアン招致授業を展開し、一流の技や指導を体験させることで、生徒の意欲の向上につなげることができる。
（2）期待される成果（仮説）
　オリンピアン招致授業を実施することで、生徒の意欲の向上が見られるであろう。また、継続した同一の地域指導者の協力は、学校の現状や生徒の実態が把握し易く、生徒も親しみと信頼をもち接することができ、わからないことを積極的に質問することや、生徒の安全面に気を配った細かで丁寧な指導ができ、３年間を通して技能の向上と柔道本来の楽しさを味わうことができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
（1）オリンピアン招致授業の実施
　オリンピアン招致授業を実施し、生徒の意欲の向上と教員、地域指導者の授業力向上を図る。
（2）地域指導者と保健体育科教員と管理職を含めた連絡協議会の設置
　単元前に、前年度の反省と課題をもとに地域指導者と３年間の単元計画を見直し、指導計画の検討確認の会を開催、各学年の既習内容や単元のねらい等の確認と、生徒の状況等についても共通理解を図る。
（3）武道指導推進委員会との連携
　県が設置する武道等指導推進委員会と連携し、県柔道連盟や各学校の実践等も参考に研究を推進した。
（4）授業の展開
①オリンピアン招致授業を展開し、生徒の意欲や技能の向上を図った。
②意図的にペア学習やグループ学習を取り入れ、生徒の話し合い活動の充実を図った。
③指導案を作成し、本時のねらいと評価、指導する時の立ち位置等の確認を授業開始前に打ち合わせ、授業終了後、評価と次時の確認を行った。
④ねらいを明確にし、学習の見通しを持たせた授業を展開した。
⑤３人での指導体制で、グループ学習等に丁寧な関わりをもつようにした。
⑥個に応じたねらいの達成や課題解決への支援を充実することに心がけた。
⑦ICT（タブレット）を活用し、生徒自身の受け身の仕方や技の形を確認できるようにした。
⑧３年間の系統的な単元計画に沿って、より柔道の本来の楽しさダイナミックさを味わう経験を可能にした。

○生徒の安全を確保するため配慮したこと

1　柔道の技能に繋がる補助的な運動や補強運動を継続的に実践した。
2　３人一組のグループをつくり、２人が練習、もう１人はコーチ役として技能のポイントや課題の確認と安全監視役を行わせた。
3　３人による指導体制での個々の役割分担と生徒への個別指導の分担を明確にし、立ち位置を確認しながら指導を行った。
4　授業開始前には身だしなみチェックを必ず行い、健康観察は授業開始前と授業終了時に必ず行った。

○成果と課題

1　手本を示してもらう中で、実際の動きの速さや技の正確さ、上手さに驚く生徒が多かった。その後、自分も手本のようになりたいと目標にする生徒が増え、生徒の感想からも興味・関心が向上したといえる。また、丁寧でわかりやすい段階的な指導をとおして、生徒の技術が大きく向上した。オリンピアンを招き授業を実践することで、生徒の多くが自分自身の将来の目標や夢について考えを深め、これからの生き方を考える良い機会となった。また、校内柔道大会においても、生徒が一生懸命取り組み、事故もなく盛会に大会を終えることができた。生徒に安全で丁寧な指導ができ、柔道本来の楽しさを味わうことができたと実感する。
2　地域指導者には、初めて柔道の授業を行う１年生や県教育研究大会江津大会で柔道の授業を行う３年生を中心に協力していただいた。連絡技においての実践であった。その際、安全面に気を配った細かな指導ができ、充実した授業の展開により生徒の技能の習得につながった。また、単元の中で技能習得のための最も重要なポイントに加わっていただくことができるように教務ともしっかり打ち合わせることもできた。さらによりよい授業の展開を目指すために、単元の中身をさらに確認、調整して充実していく必要やICT（タブレット）の活用が重要になってくる。

○研究内容

【島根県教育研究大会江津大会授業】

杉本美香先生が得意とする連絡技の師範

【地域指導者】

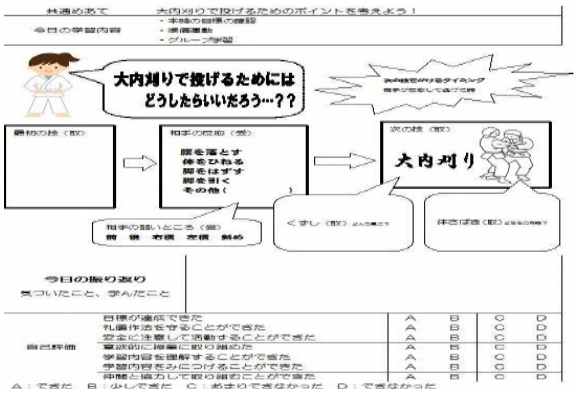
授業の流れで支援が必要な生徒へのアドバイス

【杉本美香先生の説明】

杉本美香先生が世界選手権で決めた２段階の払い腰の説明

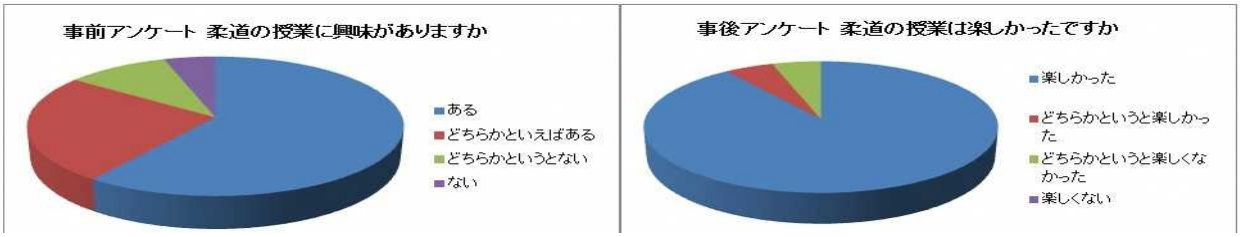
【毎時間活用したワークシート】

自己評価やポイントを明確にしたワークシートを作成



【柔道の授業に対する生徒の意識の変容】

９割の生徒が柔道の授業は楽しいと答えた。



【今後の願い】

継続して地域指導者の方に授業に協力して欲しい。また、トップアスリートが授業に参加できる機会を与えてほしい。

地域指導者の協力もあり、本単元１５時間と２時間の校内柔道大会を無事に終えることができた。今後ともこの事業を継続していただくことにより、生徒に安全で丁寧な指導ができ、柔道本来の楽しさとそのねらいを味わうことができると実感しています。また、今年度もオリンピアン招致授業を実施したところ、レベルの高い技能の習得や意欲の向上につながるとともにトップアスリートの体験談や考え方を直接聴くことで生徒自らの将来の目標や夢について考えを深め、これからの生き方の考えるよい機会となったと実感しました。

外部指導者との連携による教員の指導力を高めた実践例	学校名　伊万里市立啓成中学校（佐賀県）１年 全校児童生徒数　308 名（男子 141 名　女子 167 名） 種目等　武道（柔道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　0955（22）3600 学校メールアドレス　keisei-j@mail.saga-ed.jp

１　実践研究のねらい

（１）外部指導者とＴ１教師が連携しながら授業を展開することで、武道における礼儀作法等を含めた専門的な指導ができる。

（２）外部指導者の専門的な指導法等を学ぶことで、教師自身の指導力向上につながる。

２　実践研究の概要

（１）課題について　　・教師の指導経験が浅いことによる専門的指導の不徹底

（２）期待される成果（仮説）について

外部指導者と連携して授業を展開することで、生徒のニーズに応じた学習内容を提供でき、武道に対する苦手意識を生まない授業になる。また、教師の指導力向上にもつながる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）外部指導者との連携

①単元を見通した指導計画を共に作成し、外部指導者が参加できなかった場合の授業内容を電話やメール等で確認し、進捗状況を考慮しながら授業を進めた。

②外部指導者が参加できる授業日数を考慮し、授業の進め方や役割分担を決定した。

（２）授業の進め方、専門的指導の徹底

①授業の全体的な進行はＴ１が行い、授業の課題と成果を分かりやすくした。また、技術指導の場合は、外部指導者の方とＴ１で手本を見せ、専門的指導の徹底を図った。

②外部指導者の方に参加していただいた場合は、つまずきのある生徒や課題解決のために、授業進度を柔軟に対応した。

③単元の中盤において、生徒の主体的活動を促すために、生徒自身のかけ声に合わせ受け身を全体でとらせた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　毎時間、授業のはじめと終わりに、柔道場の畳の確認を行った。

２　生徒の実態から、指導内容を精選し、受け身と寝技のみの指導とした。その上で、生徒の関心の低下を防ぐためにゲーム性を取り入れた活動を多く行った。

３　生徒同士がぶつからないように、グループ活動の際には生徒配置を明確にしながら授業を行った。

○成果の意義と今後の課題

１　外部指導者ならではの観点で、生徒のつまずきを解決したり、教科書や指導書には掲載していない指導方法を学んだりすることで、指導力の向上につながった。

２　専門的指導により、技能の定着が確実なものになり、生徒の自信につながった。

３　生徒の習熟度に合わせた授業内容を展開できるような指導力の必要性を感じた。

○ 研究内容

【授業規律】

授業の始めとまとめで成果と課題を意識させる

【外部指導者とＴ１による手本】

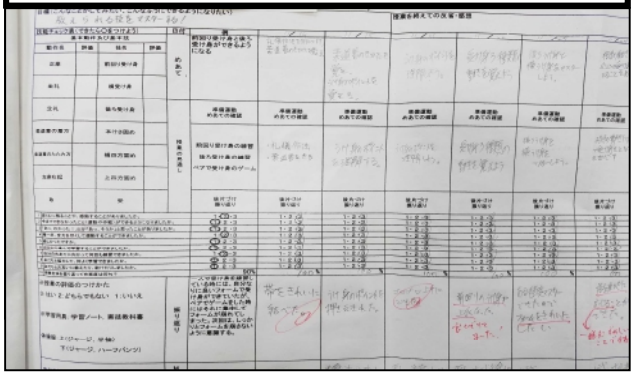
専門的な解説を入れながら技術の説明を行った

【手押し相撲ゲーム】

誰もが楽しめる活動を授業の一部に取り入れた

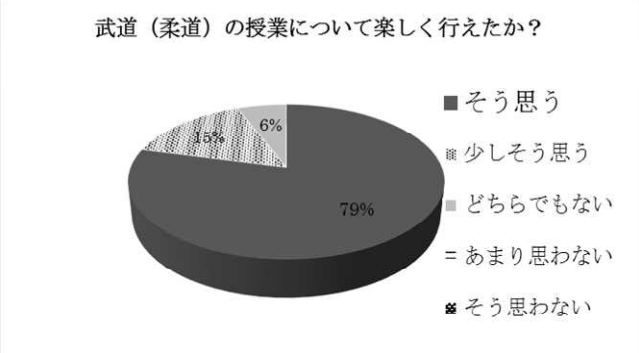
【学習ノートの工夫】

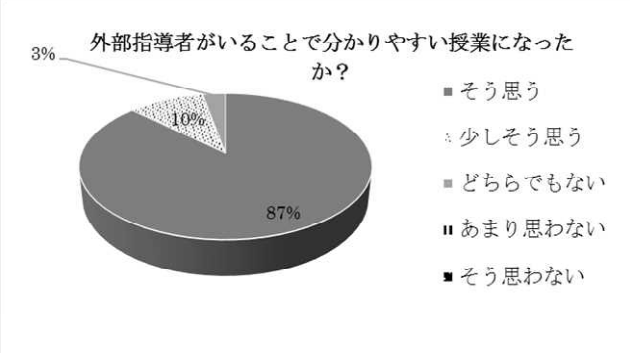
壁掛け資料などとリンクさせて作成した



【事後アンケート結果から】

授業後に以下の質問を生徒に行い生徒の意識の変容を見た。授業の始めに実施した簡易アンケートには８名の生徒が柔道に対して、「痛い、怖い」というマイナスイメージをもっていたが、事後アンケートにおいては、否定的に捉える生徒はいなくなった。左下のグラフからそのような生徒でも意欲的に取り組めたことが分かる。また、右下グラフから外部指導者がいることによる専門的な指導があることで理解しやすい授業になったと言える。





【今後の取り組みの方向性】

授業全体を振り返って、教師である自分自身の指導力向上につながったことを強く感じている。初めて行う柔道の授業であるがゆえに様々な不安と課題があったが、外部指導者の方と連携することで、専門的な見地からのアドバイスや技術指導していただき、自分自身の自信につなげることができた。また、苦手意識をもちやすい武道の授業であったが、授業を終えた生徒たちの感想からは、来年には立ち技で柔道を実施したい旨の記述が多く見られ、来年度の授業への大きな期待を感じた。

今後は、今回の事業を通して学んだ技術やノウハウを、他の教員と共有できるように教員同士の連携も深めていく必要性を感じている。また、今回の外部指導者の方とのつながりを大切にしながら、来年度も継続した形で指導できるような体制を今後も作っていきたいと感じている。

女子生徒１名の極小規模校（離島）に柔道の女性指導者を派遣し、保健体育担当教諭の指導力向上を図った例

学校名　西海市立平島中学校（長崎県）第３学年
全校生徒数　女子１名
種目等　武道（柔道）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号　０９５（８９４）３３９３
アドレス　n-saiki@pref.nagasaki.lg.jp

１　実践研究のねらい
（１）女子生徒１名という現状を受け、女性の専門性の高い地域指導者と教員が連携を図り、武道（柔道）の体育授業の充実を図るとともに免許外で保健体育を指導している教員の指導力向上を図る。
２　実践研究の概要
（１）課題について
　長崎県は全国で最も多くの離島を抱える県である。県内公立中学校１７５校のうち、４２校が離島部に属しており、本校においては女子生徒１名という状況である。そのため保健体育科教員が配置されておらず、数学教諭が免許外申請を行い指導している。このように、離島部の学校で指導に不安を抱えている教員がいても、専門的な指導者がおらず、専門性を生かした授業ができていない現状がある。
（２）期待される成果（仮説）について
・地域指導者をＴ２として授業に派遣することにより、専門的な授業がなされ体育授業の充実を図れるであろう。
・専門性を生かした授業展開により、生徒の理解が高まり、教員の指導力向上にもつながるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
（１）地域指導者の協力を得た学習指導の推進
①　優れた指導力を有する地域指導者の確保等
　西海市教育委員会から県教育委員会へ事業申請を行い、協力を得たい種目（柔道）の指導に適した人材を派遣した。派遣された指導者は、関係団体の講習及び県主催の武道研修会を受講し、学習指導要領の指導内容や指導方法等の理解を深めた競技団体の指導者である。
②　授業における地域の指導者と教員の役割の分担
　教員が単元計画を提案し、特に技能の指導内容が発達の段階に応じているか、指導上のポイントは何かなどの助言をいただき、ティームティーチングでの本時の展開を立案した。実際の指導においては、担当教員が主となり授業を進め、学習課題の提示や学習内容の指導及び確認を行い、指導者が技能のポイントの例示や運動のコツ、よい動きの紹介等を具体的に行った。また、場や用具の安全の確認については、双方で確認を行った。
（２）実際の授業において工夫した点等
①　保健体育科担当教員が免許外の女性教員で、武道指導の経験がなく、武道指導に不安を抱えているため、武道研修会等で習得した簡単な内容を用い、学習指導要領及び同解説で確認をしながら単元における指導内容を明確にした。
②　地域指導者から生徒のよい動きの例を紹介していただくことで、学習活動に即した評価規準の具体的な生徒の姿を知ることができ、効果的・効率的な評価へとつながった。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　保健体育科担当が免許外の女性教員で、武道の指導に不安を感じているという実態を受けて、生徒の性別や体格の程度に応じた指導内容を工夫し、特に「受け身」や「投げ技」の指導に地域指導者を配置し、安全確保をより確かなものとした。
２　投げ技については、地域指導者及び教員が生徒の体格や適性を見極める中で、生徒に無理のない安全な投げ方を紹介し、安全に配慮した技の習得に努めることができた。

○成果の意義と今後の課題

１　専門的な指導により、柔道に関してより理解を深めることができ、生徒の学習意欲が高まっただけでなく、教員の指導力向上につながり、更なる研修意欲が高まった。
２　地域指導者の授業により、柔道指導に不安を抱えていた女性教員が、柔道に対する知識や指導技術向上につながり、指導に対する不安が軽減され、保健体育授業の充実を図ることができた。

研究内容

【固め技の入り方について】

生徒が外部指導者に技をかけています。

【技のかけ方】

どうやったら技がかかるのか詳しく指導しました。

【実践練習】

柔道経験者の教頭先生に技をかけることができました。

【指導内容と成果】

細やかで丁寧な指導

【内容】
・筋力トレーニング（エビ、逆エビ等）
・基本の型の確認
（袈裟固め、横四方固め、上四方固め、肩固め、後ろ袈裟固め）
・乱取り２分×３本
【成果】
・専門的な指導者からの指導を受け、非常に意欲的に取り組むことができた。女子生徒１名のため、女性の指導者が手取り足取り教えてくださったのでありがたかった。上手にほめながら、やる気を引き出していただいたことで、生徒も楽しみながら取り組めた。

【授業後の意識調査から】

授業後に「体育の授業が楽しい」「運動のコツが分かった」「運動がうまくできた」について生徒にアンケートを実施

【アンケートの結果】

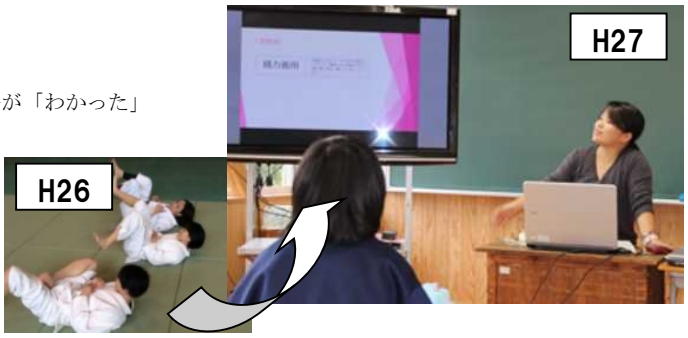
1　体育の授業が「楽しい」

2　運動のやり方やうまくできるようになるための方法が「わかった」

3　運動が今までより「うまくできるようになった」

※本校は４年連続でサポーター派遣事業を活用。

ここ３年間は女子生徒のみであるため、女性指導者を派遣し、効果を上げている。



【生徒の感想】

昨年度からの指導により更に技能も上達しました

去年から引き続き２回目でした。筋力トレーニングはきつかったけど、体幹を強くすることで技にも生かせることがわかったので、がんばって取り組みました。また、とてもわかりやすく教えてくれたり、技をかけるときに、受け身がとりやすいように技をかけてくれたので、去年よりも上手に技をかけることができました。乱取りでは、先生方と対戦したが、何度かきれいに技が決まったり。寝技や立ち技を多く使えるようになり、上手だとほめていただいたので嬉しかったです。

【教員の感想】

個に応じた配慮に感謝します

女子生徒１名のみでの実施のため、女性の指導者に来ていただき非常に助かったです。わかりやすい言葉で、的確に指導していただきました。怪我を未然に防ぐために念入りに準備体操を行うなど、安全面に配慮も十分されていた。細部にわたる丁寧な指導で、体育があまり得意ではない生徒も意欲的に取り組むことができました。

地域の武道指導者の協力を得て、生徒の実態に即した指導を行い、基本動作と基本となる技の習得を図った実践例	学校名　綾町立綾中学校（宮崎県）２・３年 全校児童生徒数１８４名（男子８０名　女子１０４名） 種目等　武道（柔道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０９８５（７７）００１５ 学校メールアドレス　ayachu@beach.ocn.ne.jp

1　実践研究のねらい

（1）地域の武道指導者を活用することによって、安全かつ楽しい運動実践を行い、運動に親しむ態度を育てる。

（2）地域の武道指導者と保健体育担当教員が連携した指導を行うことによって、生徒の実態に即した指導を行い、基本動作と基本となる技の習得を図る。

2　実践研究の概要

（1）地域の武道指導者を活用し、模範となる動きを見せることによって、武道の特性に触れた安全かつ楽しい運動実践ができると考えた。

（2）地域の武道指導者と保健体育担当教員が連携し、生徒の実態に即した段階的な指導を行うことで、基本動作と基本となる技の習得を図ることができると考えた。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）地域の武道指導者の豊富な指導経験に基づいた指導方法を生かした取組

①　武道指導者の経験に基づいた指導によって、相手を尊重した伝統的な行動の仕方を大切にし、安全を重視した指導を実践した。

②　基本動作や基本となる技の模範を武道指導者が見せ、解説することによって、より具体的なポイントを押さえた指導を実践した。

（2）地域の武道指導者と保健体育担当教員の連携・協力

①　生徒の実態把握と情報交換に努め、習得状況に応じて学習計画を見直し、授業を進めた。

②　生徒の活動中は、武道指導者と保健体育教員が二人で巡視、個別指導を行い、きめ細かな指導に努めた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　充実した設備をもつ町の柔道場を使用して授業を行った。

2　武道指導者に健康上配慮の必要な生徒を知らせ、常に保健体育担当教員が見守る体制をつくった。

3　受け身の技能を身に付けさせるために、繰り返しの指導と練習を行った。

○成果の意義と今後の課題

1　武道指導者の相手を尊重した作法・所作そのものがよきモデルとなった。また、模範を示すことで武道の特性に触れながら、安全かつ楽しい授業を行うことができた。

2　武道指導者と保健体育担当教員の連携によって、生徒の実態に即した指導を行い、技能が向上したが、個人差がある。さらなる技能の向上のためには、思考力・判断力を高めることが必要である。

○ 研究内容

【学習内容の確認】

本時のねらいを理解させるための指導

【安全面に配慮した学習指導】

「受け身」を正しく身に付けさせるための指導

【保健体育担当教員との連携】

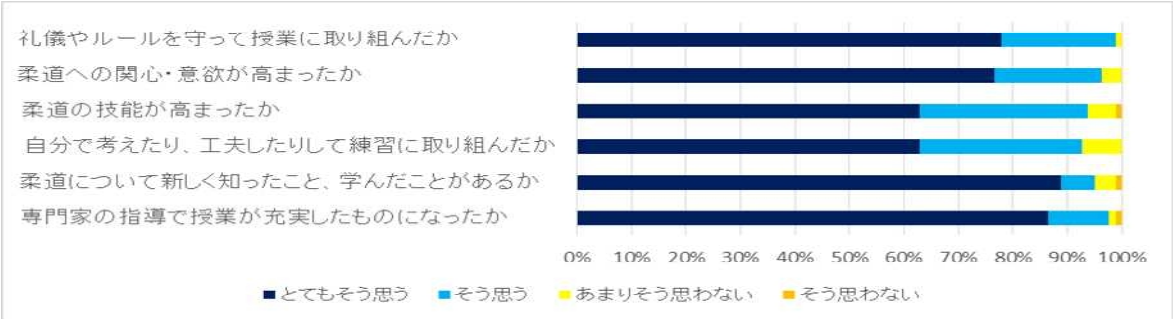
「固め技」の模範とポイントの確認

【段階的な学習指導】

活動中のきめ細かな個別指導

【生徒アンケート（授業後）の集計結果】

武道指導者による指導を受けたことに対して肯定的な意見が多かった。



【本事業の実施を振り返って】

高い専門性をもつ地域の武道指導者活用の有効性

○　地域の武道指導者の人間性が醸し出す礼法・所作に触れることそのものが、生徒にとってよい刺激となった。安全確保を第一に、「基本動作」「受け身」の繰り返しの練習と、「投げ技」「固め技」の段階的な指導を行うことができた。

○　今後は、保健体育担当が、地域の武道指導者の専門性と指導経験に学び、思考力・判断力を高める授業改善に取り組んでいく必要がある。また、生徒の礼儀や学ぶ姿勢についても見直したい。

保健体育科教員と地域の指導者との連携によるＴＴで、安全を確保しながらのより専門的な指導（礼法、体さばき、技の紹介等）により、基礎的･基本的な技能の習得を図った実践例	学校名　宮崎県立赤江まつばら支援学校（宮崎県）中学部 1～3 学年 全校児童生徒数　３２名（男子１６名　女子１６名） 科目等　武道（柔道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０９８５（５６）０６５５ 学校メールアドレス　akae-matsubara-s@pref.miyazaki.lg.jp

1　実践研究のねらい

地域の指導者を活用することにより、生徒の運動に親しむ態度を育み、技能の向上を図るとともに、事故防止を徹底し、安全かつ楽しく運動することができるようにする。

2　実践研究の概要

（１）課題について

・地域の指導者と連携を図った段階的な指導のあり方

（２）期待される成果（仮説）について

・地域の指導者による専門的な指導をとおして、基礎的･基本的な技能の習得を図るとともに、柔道に対する興味関心を高めることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）取組内容

・地域の指導者の協力を得た学習指導の推進　　・安全面に配慮した段階的な指導の工夫

（２）取組を進める上での工夫点

①地域の指導者との打ち合わせ時間の確保

・会議において、本校生徒の実態（病弱児の支援学校）や専門的なアドバイス等についての場面設定や役割などを確認した。

②安全面に配慮した段階的な指導

・「準備運動～マット運動～受け身」の一連の流れによるウォームアップを授業開始時に行い、けがの未然防止に努めた。

・礼始礼終を徹底して行い、相手を敬う気持ちをもちながら、活動に真剣に取り組むよう意識付けを図った。

③専門家による模範演技

・手技、足技、腰技の代表的なものを紹介し、打ち込み、投げ込み、乱取り、固め技の様子や具体的な方法等を示した。

④ＩＣＴ機器の活用

・プレゼンテーションによる具体的な資料提示、ＶＴＲによる試合の様子を視聴させることで、柔道に対する興味関心の向上及びイメージ作りにつなげた。

○児童生徒の安全を確保するために配慮（工夫）したこと

1　健康観察の実施、爪の長さ、メガネ着脱、柔道着を正す等、その都度必要に応じて確認した。

2　同じような体格のペアを教師側が指示し、また、「受け」「取り」を必ず確認し、それぞれのペアの向きが同じ方向になるようにした。

3　技の攻防については、立て膝までとし、右相四つで組んだ状態からはじめ、けがの未然防止に努めた。

○成果の意義と今後の課題

1　地域の指導者の協力により、より分かりやすく、専門的な指導をすることができた。

2　柔道の理念や礼儀作法に則った動作（精力善用、自他共栄、立礼、座礼等）を踏まえながらの活動をすることで、規律ある行動を心がけ、けがの未然防止につなげることができた。

3　病弱児の支援学校における活動内容について、生徒の実態に応じた無理のない範囲のものを設定しつつ、達成感を味わわせるような手立てを工夫していく必要がある。

○研究内容

活動内容の提示

授業内容の見通しを持たせる

けがの防止を念頭とした段階的な指導

授業はじめのマット運動、受け身の徹底

地域の指導者による専門的な技の説明

より専門的な知識の習得

安全面への配慮

「受け」「取り」の徹底、向きをそろえる

アンケート結果から

本校生徒の実態把握と授業に対する思い、願い等の把握

○　運動をすることは好きか

6割の生徒が「好き」と回答している。その理由として、「みんなと（関わりながら）するから」「他のことを忘れて運動をしている時が息抜きができるから」「体を動かすことは楽しいから」「家の中でじっとしていたくない」等が挙げられる。

○　体力を高めることについて、自分で取り組んでいること

5割の生徒が何らかの運動に取り組んでいると回答している。内容としては「腹筋、ウォーキング（病院の廊下）、ジョギング（病院の公園等）」「（家に帰った時）テニス、縄跳び、バレー等」「ボール投げ」「サッカー」等が挙げられる。

一方、全く取り組まない生徒もおり、いわゆる二極化傾向が見られた。

○　健康管理のために意識して取り組んでいること

「御飯をゆっくり食べる」「よくかんで食べる」「風呂に入り、清潔を心がける」「野菜ジュースを飲む」等の回答が見られた。一方、「（全く）ない」と答える生徒もおり、健康管理に対する意識の差が見られた。

○　柔道の学習について、学んでみたいこと

「人を（前・後に）投げたいです」「試合がしたい」「受け身」「柔道の基本を学びたい」等の回答が見られ、柔道を学習することへの関心の高さを伺うことができた。

○　講師の先生に学びたいこと

「専門的な技の紹介、指導」を希望する生徒が多く、外部講師の指導に期待する傾向が大いに見られた。

今後の武道指導のあり方

病弱児対象の支援学校として心がけていきたいこと

○　中学部生徒10名に対し、最終回は欠席2名、見学2名、途中参加1名という状況での授業実施であった。体調管理に関しては不安定な状況も多い中ではあるが、「本物に触れる機会」については今後とも機会を見て積極的に取り組んでいきたい。

○　技や礼法等の指導に併せて、日本代表選手の熱心な練習風景や柔道に対する思い等を、ＶＴＲによって紹介していただいた。また、講師の先生の「こどもに対する熱心な指導、自ら学ぶことに対する貪欲な姿勢、柔道以外のスポーツからも参考になることを取り入れて指導に活かすよう心がけていること」等の話を聞くことで、生徒共々「できること」を探りながら、安全面には十分に配慮しつつ、様々なことにチャレンジしていきたいと改めて学ばせていただいた。

高等学校教員との連携を通して，剣道の特性に関心をもたせ，基本動作を身に付けさせる授業の実践例	学校名　大仙市立大曲南中学校（秋田県）全学年 全校児童生徒数　８１名（男子３３名　女子４８名） 種目等　武道（剣道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０１８７（６５）２００１ E-mail　om-minamityu@edu.city.daisen.akita.jp

1　実践研究のねらい

（1）剣道に関する専門的な知識と高い技能を有する高等学校教員と連携した授業を行うことで，剣道の特性に関心をもたせ，基本動作の定着と技能の向上を図る。

（2）高等学校教員とＴＴ授業に取り組むことで中・高連携を図り，互いの授業改善を図る。

2　実践研究の概要

（1）剣道の特性に関心をもたせるための指導の工夫

（2）基本動作の定着と技能の向上を図る指導の工夫

（3）安全の確保に留意し，学習段階や個人差を踏まえた段階的な指導の工夫

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）剣道の特性に関心をもたせ，基本動作の定着と技能の向上を図る指導の工夫

①　剣道の礼法や歴史については，ＤＶＤ（紙芝居風のアニメ）やパワーポイントなどを利用し，生徒の興味・関心を高めるようにした。

②　映像を「見て関心をもつ」だけでなく，竹刀等に「触れて関心をもつ」という点では，高等学校教員の専門的な指導により，生徒の基本動作の定着と技能の向上を図ることができた。

（2）安全の確保に留意し，学習段階や個人差を踏まえた段階的な指導の工夫

①　礼儀の尊重，約束事を守ることに重点をおき，技能については段階的に指導するようにした。

②　剣道が盛んな地域で，小学校では木刀による素振りを経験しており，剣道に関心をもっている生徒が多い。そのため，授業計画に加えて毎時間の授業後にも指導案検討を行うなど，生徒の実態に応じた指導を心がけた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　生徒の健康状態や実態を把握し，準備運動を十分に行ってから主運動へとつなげていった。

2　体育館の床板，金具蓋へ粘着テープを貼り，安全を確かめてから活動を行わせた。

3　竹刀（折れ，緩み，ささくれ），剣道具（破損）の安全を確認し，正しく装着させた。

○成果の意義と今後の課題

1　専門的な知識と技能に裏付けされた授業展開により，生徒は剣道の特性に関心をもち，楽しみながら基本動作の定着と技能の向上を図ることができた。また，剣道だけでなく他領域の互いの授業について情報交換を行い，授業改善を図ることができた。

2　今回初めての剣道授業であったが，授業計画から授業展開についても学ぶことができた。中学校教員（Ｔ１）が全体指導であったが，高等学校教員（Ｔ２）が生徒の実態に応じてきめ細かく指導してくれたため頼る部分が多かった。安全面も含め，来年度以降中学校教員のみで十分な指導ができるかが不安である。この事業の継続を希望する。

○ 研究内容

【剣道の歴史や特性について】

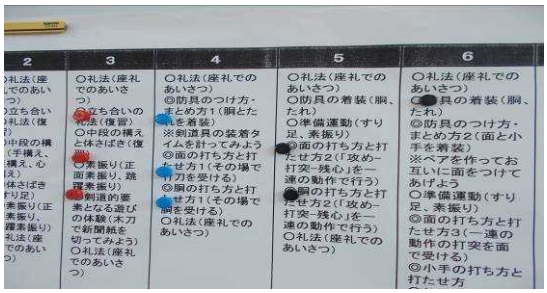
様々な刀を用いて歴史や特性について学ぶ様子。

【基本動作の定着について】

剣道的要素となる遊びの体験（木刀での新聞切り）。

【ＴＴ授業による授業改善について】

指導計画を拡大し，すぐに本時の反省と次時の内容確認。

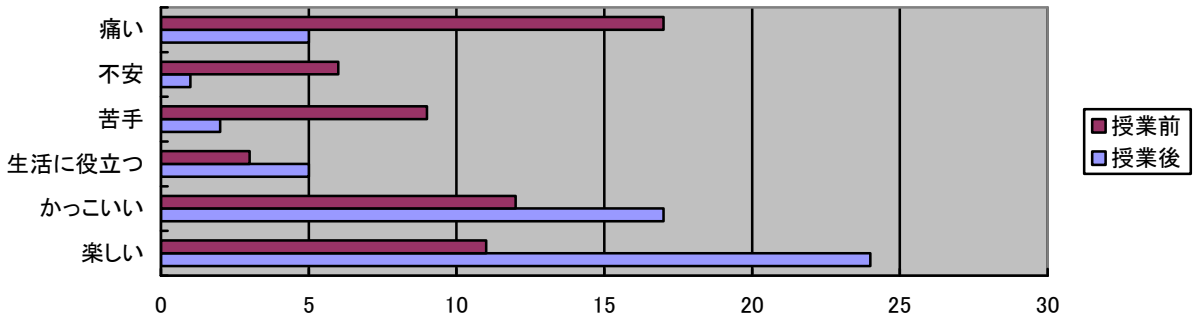


【生徒の実態に応じた指導について】

３年生は，面・胴打ちの攻防まで行うことができた。

【剣道に関するアンケートより】

剣道授業に対して，授業前と授業後の気持ちの変化（３年生）



【剣道指導における今後の方向性】

生徒が剣道の特性に関心をもち，楽しみながら基本動作の定着と技能の向上を実感できる指導を目指して

３年生のアンケート結果からも分かるように，剣道授業に関して授業前と授業後では，「楽しい」という気持ちが大幅にアップした。１年生や２年生は木刀によるバスケットボールを使ったドリブルや新聞切りなどを通して，「技ができる楽しさ」を味わう場面が多かったが，３年生で「楽しい」という気持ちが大幅にアップした要因は，専門的な知識と技能をもった高等学校教員による生徒の実態を踏まえた指導により，「技を高め合う楽しさ」を味わうことができたからだと考える。今後も，生徒の実態を踏まえた指導を行うために，高等学校教員との連携を図って，より剣道の楽しさを味わうことのできる授業をしたい。

専門性の高い指導者と連携した授業により、生徒の武道に関する関心、意欲を高めた実践例	学校名　いわき市立川部中学校（福島県）１，２年 全校児童生徒数　　６３名（男子２２名　女子４１名） 種目等　　武道（剣道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０２４６（６５）２２２３ 学校メールアドレス kawabe-jh@city.iwaki.fukushima.jp

１　実践研究のねらい

（１）専門的技能を有する外部スポーツ人材を武道の授業に招聘し、保健体育科教員と連携のもと授業の充実を図る。

（２）豊富な指導経験を有する外部スポーツ人材から指導を受けることによって武道の楽しさや礼を重んじる心を育てる。

２　実践研究の概要

（１）　課題について

１年生　初めて学習する内容であるため、基本動作と基本となる技を確実に身につけさせる。

２年生　基本動作や基本となる技を用いて、相手の動きの変化に対応した攻防ができるようにさせる。

（２）　期待される成果（仮説）について

剣道の専門家である指導支援者の指導を受けることにより、剣道は礼法に基づいた、厳しさと品格のあるスポーツであることを認識することができ、武道に対しての理解が深まる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）指導支援者は指導経験が豊富な高段者であるので、基本動作や基本となる技を身につけさせることのみならず切り返しの効果、足さばき等の要素や、剣道の礼法にも重点を置き指導した。

（２）２学年については、昨年度からの継続でもあるので、生徒の学習段階に合った指導をすることとした。また体育担当教師と指導支援者の役割分担について事前に相談し明確にした上で指導にあたった。

○児童生徒の安全を確保するために配慮（工夫）したこと

１　事前に防具・竹刀の点検と調整を行った。また、指導支援者より防具等の管理方法等についても指導を受け、衛生面にも留意した。

２　防具の着装については十分時間をかけ、正しいひもの結び方について指導した。

○成果の意義と今後の課題

１　専門家で高段者である指導支援者の指導を受けることにより、剣道は礼法に基づいた品格のあるスポーツであることを理解することができ、興味関心が高まった。また、昨年度と同じ指導支援者による授業であるため、上級生が安心して指導を受けることができ、より進んだ段階の技能の定着につながった。

２　剣道は竹刀・防具の点検をしっかり行えば、最も安全な武道のひとつである。特に竹刀の手入れは、事前に若干の知識と技術が必要であるが、年度をまたぎ事業を継続していくことで解決できる。

○ 研究内容

【基本動作①】

竹刀の持ち方や構え、足さばきの指導

【基本の動作②】

正しい防具の着用方法について

【基本の動作③】

篭手・面・面などの連続打ち

【試合と審判】

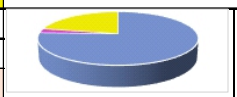
試合と審判の練習

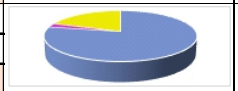
【武道に関するアンケート結果】

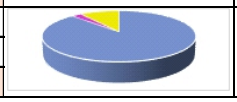
外部人材活用による生徒の意欲向上や技能習得への意識調査

ア 思う　　イ 思わない　　ウ どちらとも言えない

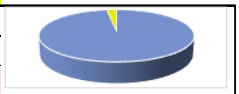
	評価項目		ア	イ	ウ
1	武道に対する意欲の向上	1年	17	0	3
		2年	14	1	6
		全	31	1	9
2	専門的な技能の向上	1年	16	0	4
		2年	16	1	4
		全	32	1	8
3	武道の基本動作や動きの習得	1年	18	0	2
		2年	18	1	2
		全	36	1	4

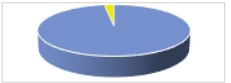


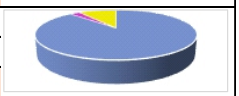




	評価項目		ア	イ	ウ
4	専門的な技能の指導力	1年	20	0	0
		2年	20	0	1
		全	40	0	1
5	言葉使いや指導者としての適切性	1年	20	0	0
		2年	20	0	1
		全	40	0	1
6	授業の活性化	1年	19	0	1
		2年	17	1	3
		全	36	1	4







【授業における武道】

次年度以降の武道の授業への期待

・保健体育科の授業において、武道の授業時間は専門的な知識・技能が必要であり、特に、安全面に対する知識や指導法については、武道を専門的に習得している教師がいるとは限らず、多くの不安がある。本校では専門家の支援を継続して受けたことにより、基礎・基本だけでなく安全面での留意点の理解を深めることができた。さらに２年目の指導を受ける学年は、より高い段階の技能を身につけることができた。また、礼儀について学んだことは生活の場面において大変有効に働いている。

外部指導者による、基礎・基本安全に配慮した剣道の授業づくりの研修会で、教員の指導力向上をめざした実践例	実践市名　高石市（大阪府）　中学校数　３校 種目名　剣道　　（実施学校数　１校） 講習会参加延べ人数　　１８人 （本事例に係る問合せ先） 高石市教育委員会事務局学校教育課 電話番号　０７２（２６５）１００１ メールアドレス shidou@city.takaishi.lg.jp

１　実践研究のねらい

（１）剣道の基礎・基本、安全面を考慮した講習を受けることで、剣道の授業における教員の指導力を高める。

（２）生徒が興味・関心をもって楽しく、安全に学習することができる指導の工夫に取り組む。

２　実践研究の概要

（１）課題について

市内の保健体育科教員のうち、剣道の実技経験及び指導経験の少ない教員が大半であり、指導者の実技経験、指導力向上が課題である。

（２）期待される成果（仮説）について

講習を受けることにより、教員の剣道の実技指導及び礼儀等の指導力向上につながる。

教員の指導力が向上することにより、生徒に興味・関心を持たせ、授業に取り組ませることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）外部指導者による講習会の実施

・剣道の基礎・基本、安全面を考慮した講習

（２）授業で実践できる指導内容の享受。

・武道的要素の動きを培うため、遊びを通して実践できる活動の紹介・実践

・研修内容を取り入れた授業の実施、授業後の研究討議、指導助言

○実践市として児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　武道授業の安全な実施について、周知徹底した。

２　「わかる・できる・楽しく学ぶ」を目標に、めあてを明確にし、生徒が目的意識をもって一つひとつの動作を習得できるような指導をめざした。

○成果の意義と今後の課題

１　成果

講習会等の実施により、剣道に係る技能の向上を図ることができた。また、指導方法を学んだことにより、安全面に配慮し、より良い実践を積んでいこうという意欲と自信がついたことが、受講した教員のアンケート及び感想から見受けられた。

２　課題

市内全保健体育科教員への普及、教員の技能及び指導技術の向上について、今後いかに継続して取り組んでいくかが課題である。

研究内容

【実技講習会】

ウォーミングアップ（手ぬぐいを使って）

【実技講習会】

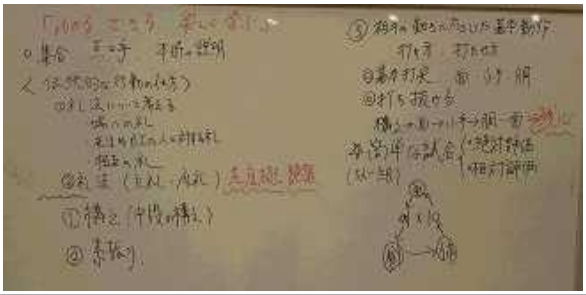
基礎・基本技能を学ぶ（構え・足さばき）

【実技講習会】

基礎・基本技能を学ぶ（基本打突）

【実技講習会】

研修内容・流れ



【講習会をもとに体育の授業】

基礎・基本技能を学ぶ（素振り）

【講習会をもとに体育の授業】

基礎・基本技能を学ぶ（基本打突）

【剣道の授業に対する生徒アンケート】

１年女子授業実施後のアンケート結果

	とても そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
剣道の授業は楽しいですか	40%	41%	14%	5%
授業の内容を理解し、積極的に取り組めましたか	38%	54%	6%	2%
あいさつ等の礼儀や作法を身に付けることができましたか	54%	40%	5%	1%
剣道の授業を受けて、達成感がありましたか	37%	48%	12%	3%

【実技講習会後の教員アンケート】

講習会実施後の参加教員アンケート結果

	とても そう思う	まあまあ そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない
今回の講習会の内容を理解することができましたか	78%	22%	0%	0%
今回の講習会に参加して、今後の参考になりましたか	83%	17%	0%	0%

（感想等）

・剣道で、評価と試合を組み合わせた内容が非常にわかりやすく、今後授業で取り組んでいこうと思った。

・防具を使わないで試合ができるとは思っていなかったので、とても勉強になった。

・竹刀の使い方をわかりやすく指導していただき、自分自身も上達しているように感じた。

・子どもたちが「かたい競技」と思っているであろう剣道を、手ぬぐいや新聞紙を使用したり、リズム剣道など生徒が楽しく学べる方法をたくさん教えていただいた。今後の授業に取り入れたい。

・初めて剣道をする生徒に対して、導入時に活用できそうな内容で、非常に参考になった。

・剣道の指導は難しいと感じていたが、今回の研修で「授業における剣道」を楽しくわかりやすく取り組める指導方法を学ぶことができ、今後に活かしていきたい。

【実技講習会を終えて】

より良い剣道の授業づくりをめざして

市内の保健体育科教員のうち、剣道の実技経験及び指導経験の少ない教員が大半であり、指導者の実技経験、指導力向上が課題である。剣道実施校は３校中１校であるが、転勤等により今後、剣道を指導する機会もあることが考えられ、市内全中学校の保健体育科教員が参加して、今回の研修会を行った。参加した教員から、「剣道の指導は難しいと感じていたが、今回の研修で『授業における剣道』を楽しくわかりやすく取り組める指導方法を学ぶことができ、今後に活かしていきたい」や「子どもたちが『かたい競技』と思っているであろう剣道を、手ぬぐいや新聞紙を使用したり、リズム剣道など生徒が楽しく学べる方法をたくさん教えていただいた。今後の授業に取り入れたい」等の今後の参考となったという感想が多かった。また、「竹刀の使い方をわかりやすく指導していただき、自分自身も上達しているように感じた」という感想もあり、自信をつけた教員もいた。

今回、剣道の基礎・基本、安全面を考慮した講習を受けたことで、剣道の授業における教員の指導力・自信が高まり、生徒が興味・関心をもって楽しく、安全に学習することができたと考える。引き続き、より良い実践となるよう、各校の実践を支援していきたい。

男女共習による剣道の授業作りに関して大学准教授に指導を受けた事例	学校名　和歌山県立那賀高等学校（和歌山県）２学年 全校児童生徒数　957 名（男子 417 名　女子 540 名） 種目等　武道（剣道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　0736（62）2117

1　実践研究のねらい

（1）剣道経験の乏しい生徒に対して授業を行う際に、より効率的で安全に学習を行い、剣道についての理解を深め、技能習得をする。

（2）自己や他者を客観的に見つめ、体力・技能の高め方や課題解決方法を仲間と考え、実践し、それぞれの課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。

2　実践研究の概要

（1）課題について：剣道経験が少ない生徒ばかりなので、剣道具着装や技能の説明に時間が必要になり、運動時間の確保がむずかしい。また、剣道の理解が乏しい。

（2）期待される成果（仮説）について：互いの良い面や課題に気づき、評価することができるようになる。また、課題解決に向けて具体的練習方法や意識するポイントを話し合うことができるようになる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）　班別学習を行い、道具着装を生徒同士で助け合う。また剣道の基礎的運動(足捌き、竹刀操作)をゲーム感覚で行うよう工夫し、毎時間取り組む。

（2）　学習ノートやタブレットを活用し仲間の良い点や課題、互いの気づきを具体化した。
技能練習や試合の合間に気づいた点を話し合う機会を設け、工夫した課題解決方法をすぐ実践し、効率的に技能向上できるようにする。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　班別学習により剣道具の着装をお互いにすることで、慣れない生徒が一人でつけるよりもしっかりと着けることができるようにした。

2　各班の練習場所を固定し、練習や試合するときの動作の方向に対してルールを作ることで、生徒同士の衝突を防いだ。

○成果の意義と今後の課題

剣道は日本古来の伝統文化として、礼儀作法や心の成長をうながす側面がある反面、格闘的な要素から、恐怖心から男女共習が難しいように思われる。しかし、大学准教授の指導の下、剣道をとおして、生徒が主体的に課題を発見し、解決する力を育てるという観点で授業づくりを工夫した結果、生徒が互いに気づいたことを話し合い、課題解決方法を工夫し実践することで、達成感や運動の楽しさを味わうことができた。

今後の課題としては、毎時間の基礎的取り組みの段階的工夫や学習ノートの改善により、基礎力の効率的定着と生徒の課題解決に向けた気づきをうながすよう工夫し、より効率的な学習を目指す。

○ 研究内容

【剣道具の着装】

お互いに着けることでより早くより確かに

【足さばきの基礎練習】

毎時間ゲーム感覚で取り組む

【班別学習による技能の練習】

一方通行で役割を交代しながら行う

【学習の振り返りと定着】

タブレットや学習ノートを用いて話し合う

【剣道授業に対するイメージ】

剣道選択生徒に事前、事後アンケートを実施

事前アンケート

剣道を高校体育以外で経験したことがありますか？	はい　２４％	いいえ　７６％	
男女共習に抵抗はないですか？	はい　４３％	どちらでもない　４９％	いいえ　８％
剣道を楽しんでおこなえそうですか？	はい　４９％	どちらでもない　４６％	いいえ　５％

事後アンケート

自ら進んで学習できましたか？	はい　７８％	どちらでもない　２２％	いいえ　０％
できるようになったと思うことがありましたか？	はい　７５％	どちらでもない　１９％	いいえ　６％
仲間と互いに教えたり助けたりできましたか？	はい　９１％	どちらでもない　９％	いいえ　０％

【主体的・協働的な学びをとおした体育学習】

生徒自らが進んで運動に取り組み仲間と共に高め合う姿のある学校を目指す

本校にて、全ての体育授業で男女共習を取り入れてから十年以上が経過するが、生徒自らが進んで運動に取り組み、自他の課題を発見し解決するなかで互いに高め合うことにつながるよう、ますます教材を精選、工夫していきたい。

地域スポーツ指導者との連携による 武道授業の在り方	学校名　下関市立内日中学校（山口県）全学年 全校児童生徒数　　２１名（男子１０名　女子１１名） 種目等　武道（剣道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０８３（２８９）２４３１ 学校メールアドレス utsui-chu@edu.shimonoseki.yamaguchi.jp

１　実践研究のねらい

（１）地域スポーツ指導者の専門的な指導により、生徒の意欲や関心が高まる授業を仕組む。

（２）剣道の歴史、礼法及び伝統的な行動の仕方について、より専門的に学ぶ。

（３）３年間の継続した取組により、効果的な指導の在り方を探る。

２　実践研究の概要

（１）課題について

初心者の１年生と昨年度まで経験のある上級生との間に、技術の差や運動に対する意欲の差がみられる。

（２）期待される成果（仮説）について

①２人の地域スポーツ指導者による丁寧な指導実践により、生徒の意欲関心が高まり、より高度な技術を習得することができる。

②３年間継続した取組により、技能の向上に加え精神的な鍛錬が顕著にみられるようになる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）剣道に対する心構えや礼法、歴史などを、資料や掲示を工夫することで、生徒により徹底して伝えることができた。特に「惻隠の情」を意識し、相手への思いやりの気持ちがみられた。

（２）防具の安全性について、授業の始まりと終わりに確認することで意識が高まった。

（３）リズム剣道を導入することで、生徒はより意欲をもって取り組み、技能の向上が図られた。

（４）毎時間の記録をとることで、生徒の課題や達成度が確認できた。

（５）少人数であり、全学年で共修することで、教え合いの場や打ち合いの場など、多種多様な関わりがみられた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　防具の着け方について正しい知識と技能を身につけさせることを、複数の指導者で確認し、徹底した。稽古中に防具や竹刀に不備が生じた場合、すぐに対応した。

２　「相手を尊重する」ことを、稽古中に意識させ、活動させた。

○成果の意義と今後の課題

１　（成果の意義）２名の専門指導者による授業で、生徒は剣道を好きになり運動の楽しさを味わうことができた。また、最後の授業で専門家による打ち合いを間近にみることで、剣道の醍醐味を味わうことができた。

２　（今後の課題）各学年、または個人の目標設定に加え、９時間の授業を通してつけさせたい力や単元計画について、地域スポーツ指導者と入念な打ち合わせが必要であると感じた。

○研究内容

【導入時の手ぬぐい取り】

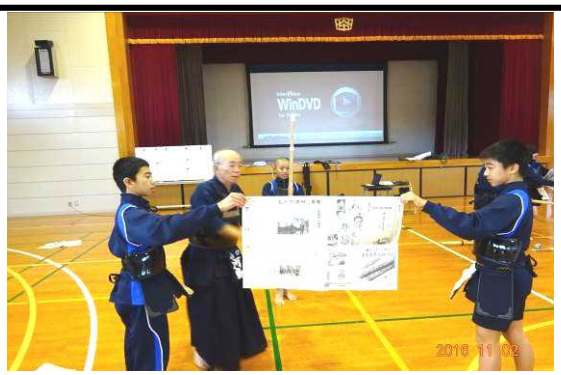
俊敏性を高めるために、２人組による手ぬぐい取り。

【リズム剣道】

２人組による、面、小手、胴の技能を身に付けるリズム剣道。

【新聞紙を使った面打ち】

広げたものや丸めたもので、正しい面打ちの習得。



【２人の指導者による稽古】

高段者による迫力ある稽古を間近で見学。

【生徒の運動に対する意欲や達成感に向上】

生徒アンケートについて、すべての項目において、実践後の生徒の運動・授業に対する意識が高まった。

生徒アンケート結果より	1	運動が好きである	４５％　→６０％
	2	運動は大切なものである	５０％　→６０％
	3	卒業後自主的に運動をしたい	５５％　→６０％
	4	授業は楽しい	５０％　→５５％
	5	授業以外でも役立てたい	３０％　→５０％

【生徒の体力向上と活気ある授業の工夫】

学校全体で取り組んでいる体力向上に加え、さらに礼儀正しく活気のある授業づくりに取り組みたい。

総合的な学習の時間や毎日の掃除後の時間を体力づくりに充てている。生徒は体力も向上し、意欲的に運動に親しむことができている。今後、さらに活気のある授業づくりについて工夫し、生涯を通じて運動に親しみ健康な生活を送れる生徒の育成をめざしたい。

基本動作と基本となる技の効率的な習得に向けた剣道授業の実践例	学校名　大洲市立河辺中学校（愛媛県）１～３年 全校児童生徒数　１２名（男子５名　女子７名） 種目等　武道（剣道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　（０８９３）３９－２５２４ 学校メールアドレス kwb-jof@esnet.ed.jp

1　実践研究のねらい

（1）　外部指導者の経験や専門的な知識を有効に活用して、生徒に剣道の基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせ、剣道に親しみ、楽しむことができる生徒を育成する。

（2）　経験の浅い生徒の技能向上につながる実践的方法についての研究を行う。

2　実践研究の概要

（1）　課題について

初めて行う剣道に対して抵抗感を感じている生徒がいることと、防具の着脱に活動時間を奪われることが予想される。

（2）　期待される成果（仮説）について

剣道の基本動作や基礎的な技能を効率的に習得することができれば、剣道に対しての興味・関心が高まり、学習に積極的に取り組むことができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）　面打ちを中心に基本打突の反復練習（常に中心を打つようボール打ちも導入）を行った。

（2）　礼法、基本動作や基本となる技を身に付けさせるために「形」を重視した稽古法を取り入れ、学習の中心として行った。　※「木刀による剣道基本技稽古法（日本剣道連盟）」

（3）　防具を装着しなくても学習を進められるよう、「寸止め」を取り入れて「形」を重視した学習に時間をかけ、正しい姿勢や技の仕組みの理解、基本動作の習得を行った。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　竹のささくれや弦のゆるみなど、竹刀の点検を毎時間行うとともに、生徒自らにも徹底させた。

2　生徒一人一人にマナーと安全面についての配慮を徹底させた。

3　剣道でよく使う部位を中心に、準備運動をしっかりと行わせた。

○成果と今後の課題

1　１００分×７日で構成したため、一つの技や動作等の指導に十分な時間をかけることができた。

2　外部指導者と教諭２名での授業展開により、生徒の技術的なつまずき等、細部まで観察及び指導ができた。

3　ユーモアを交えながら、基本的な技能の習得に重きを置いて実施したため、苦手意識をもった生徒にも比較的受け入れやすい学習内容となった。

4　今後の剣道指導や生徒への啓発活動について、外部指導者と教師間で来年度に向けての意見交換が十分になされた。

5　３学年合同の授業であるため、習熟度の違いが随所に表れた。今後は教師主導の学習と、上級生をリーダーにした小集団での課題解決型の学習を併用して学習を進める必要がある。

○ 研究内容

授業風景①「礼法の指導」

礼儀を正し、相手を尊重することの重要性を伝える。

授業風景②　「面打ち」

基本打突、基本となる技の練習を一斉に行う。

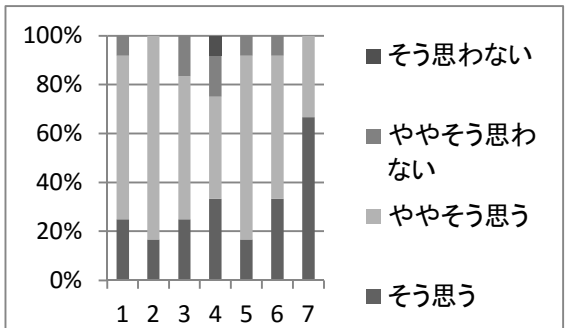
「形を重視した剣道基本稽古法」①

防具を装着せずに寸止めで「形」の練習を行う。

「形を重視した剣道基本技稽古法」②

かかり手と元打ちが互いにタイミングを合わせて行う。

【剣道に関するアンケート調査】　　１４時間の授業を終えてのアンケート結果



1　積極的に剣道に取り組んだ。
2　相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとした。
3　技を身に付けるためのポイントを見付けることができた。
4　基本動作ができた。
5　基本となる技ができた。
6　技の名称や行い方、剣道において高まる体力が分かった。
7　剣道に親しみをもち、楽しく取り組んだ。

【アンケート調査結果の考察】

剣道の学習前は、「痛そう」「疲れる」など不安な気持ちを抱いていた生徒も、学習後には全ての生徒が「親しみをもてた」「楽しく取り組めた」と答えていた。生徒の技能レベルにあった学習を進めることができたのだと思う。また、外部指導者を活用して「形」を中心にした基本動作や基本の技の伝達を重視したことで、多くの生徒に正しい動作や知識を伝えることができた。

３学年合同の授業であるため、習熟度の違いを授業でどう補うかが今後の課題である。単元の中盤以降には、上級生をスモールティーチャーとして授業に臨ませるなど、今後は課題解決型の展開を取り入れ、そこに外部指導者や教師がどう関わるべきかについての研究を進めたい。

地域の武道指導者と教員とが協力し、専門的な指導によって生徒の剣道に対する関心を深め、基礎的・基本的な技能の習得を図った実践例

学校名　串間市立都井中学校（宮崎県）第１・３学年
全校児童生徒数　６名　（男子１名　女子５名）
種目名　武道（剣道）
（本事例に係る問合わせ先）
電話番号　０９８７（７６）１０１５
学校メールアドレス　4218ja@miyazaki-c.ed.jp

1　実践研究のねらい

（1）地域の武道指導者を、より専門性の高い指導者として招へいし、生徒の武道に対する関心を深め、生涯を通じて武道に親しむ資質や能力を育成する。

（2）専門的な指導ができる指導者と共に授業を行うことで、生徒の剣道の基礎的・基本的な技能の向上を図る。

2　実践研究と概要

（1）課題について

・　武道指導者と連携を図った段階的な指導は、どのように構築していけばよいか。

（2）期待される成果（仮説）について

・　剣道の特性をより理解することができ、生徒が意欲的に授業に参加することができる。

・　安全面に気を付けて学習することができる。また、体育担当教員の指導力の向上につながる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）武道指導者と体育担当教員の連携・協力

①　放課後や昼休み、授業前の時間を使って、本時のねらいやポイント、流れの確認を行った。

②　武道指導者と体育担当教員が模範を見せ、具体的な身体の使い方の指導を行った。

（2）専門性を生かした取組

①　毎時間の始めには必ず「剣道の理念」、「剣道修練の心構え」を正座で暗唱することで、剣道の魅力をより感じられるようになるとともに、生徒一人一人の剣道を学ぶ意欲を高めることができた。

②　授業始めに、必ず竹刀・防具、体育館の床に不備はないかチェックしたり、軽微な破損部にテープ等で補強したりするなど、専門家ならではの安全面への配慮が施されることで、けがの未然防止などにつながり、安全な活動が進められるようになった。

○児童生徒の安全を確保するために配慮（工夫）したこと

1　始業前に必ず健康観察を実施した。メガネ等の着脱、筆記具の置き場なども場所を指定した。

2　防具の着け方、礼儀についての指導を徹底した。

3　ルールや禁止事項の徹底を図り、練習場の安全を確かめながら指導した。

4　基礎的な身体の使い方を習得する際は、整列の仕方やスペースの確保に努め、集団で同時に同じ作業を行った。

○成果の意義と今後の課題

1　剣道について関心をもつことができ、来年度以降への学習意欲の高まりにもつながった。

2　もっと試合がしたかったという意見もあり、決められた時間の中で、生徒の学習意欲に即した授業作りを更に工夫していく必要がある。

○　研究内容

礼儀についての指導

正しい正座、礼の仕方を体得。

お互いの指導

学んだことをお互いに教え合うよう促した。

竹刀の扱い方の指導

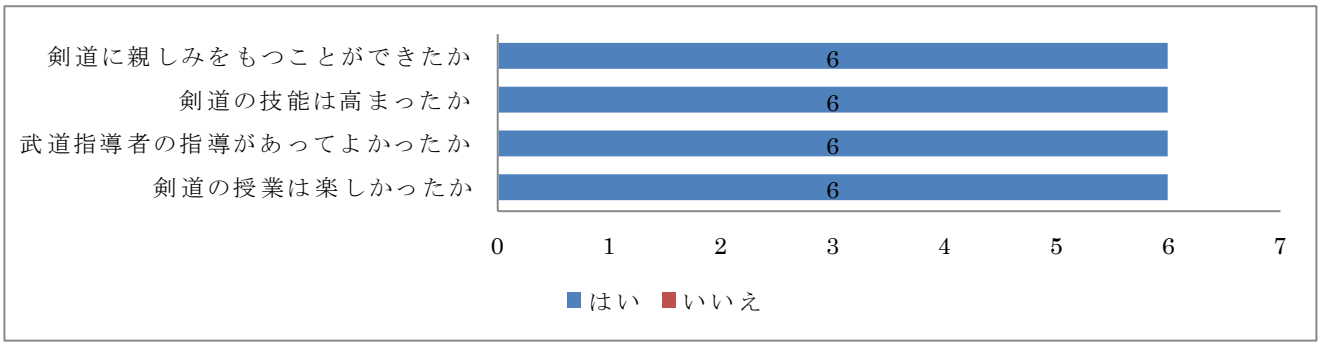
体さばきの習得と全員で声を出して素振り。

約束練習の指導

ペアで「面・胴・小手」の約束練習。

授業実施後の剣道授業に関する生徒へのアンケート結果

授業後に生徒６名に対して行った４項目の授業アンケートの結果



アンケート結果からの考察と今後について

本事業における地域の武道指導者と生徒への授業アンケート結果の考察と今後の取組について

上記のアンケート結果以外にも、「もっと剣道したい」という意見や、休み時間や放課後を使って剣道の理念を暗唱できるまで練習するなど、地域の武道指導者の専門的な指導が受けられることで、意欲的な学習へとつながったと考える。また、武道指導者と協力して授業を組み立てることで、集団や個に応じた指導の充実が図られ、剣道経験のない教員も自信をもって授業に取り組めた。教員の指導力向上のためにも、武道指導者から学び、実践していくことが大切である。今後ともこのような機会があれば、積極的に活用していきたい。

外部指導者と、目標や生徒の状況の理解、授業内容・方法の確認等を円滑に行った事例	教育委員会名　　岩手県教育委員会 種目等　武道（柔道・剣道） （本事例に係る問合せ先） 岩手県教育委員会事務局スポーツ健康課 電話番号　０１９（６２９）６１９７ メールアドレス　DB0006@pref.iwate.jp

1　実践研究のねらい

（1）体育授業における安全確保、及び学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに向け、学校と外部指導者の連携の在り方について検討する。

（2）外部指導者を効果的に活用し、武道における指導歴、研修歴が浅い教員の指導力、資質能力を高める。

2　実践研究の概要

（1）課題：学習指導要領の趣旨等について、学校と外部指導者の共通理解を図ること。

（2）期待される成果：実践校に対する関係団体や教育委員会の効果的な関わりにより、外部指導者を活用した授業において、安全確保及び生徒の武道に対する関心や意欲を高めることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）関係団体及び実践校との効果的な連携

①　派遣する外部指導者の決定にあたり、県の柔道連盟及び剣道連盟所属のコーディネーターが、指導者リスト（授業を行うための研修を受講した指導者）をもとに調整役を務めたこと。

②　外部指導者と学校との事前打合せ事項を具体的に示したこと。（授業のねらい、生徒の実態、役割分担等）

（2）武道の指導歴、研修歴が浅い教員の指導力、資質の向上

①　当該教員が外部指導者と協力して指導することで、種目の特性や安全確保の具体的方法について研修できるようにしたこと。

②　外部指導者を活用した授業を指導主事が参観し、授業後には、当該教員に対して指導助言を行えるようにしたこと。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　武道の授業実施に先立ち、各校の設備・用具の安全及び指導体制について確認したこと。

2　指導主事による実施校訪問により、安全確保について学校に助言できるようにしたこと。

○成果の意義と今後の課題

1　実践校における事前打合せの充実等により、生徒の実態や学習指導要領の趣旨をふまえた授業実践が行われるようになったこと。

2　外部指導者の不足や、指導協力を得られる時間帯の制約等があるため、県教育委員会が広域的に学校とのマッチングを図っていかなければならない状況にあること。

○ 研究内容

【外部指導者による見本】

視覚的・体験的に理解する生徒

【楽しく技能を身に付ける工夫】

ゲーム形式の抑え技の学習に取り組む生徒

【掲示物による知識の理解】

正しい理解のもとに技能等を身に付ける生徒

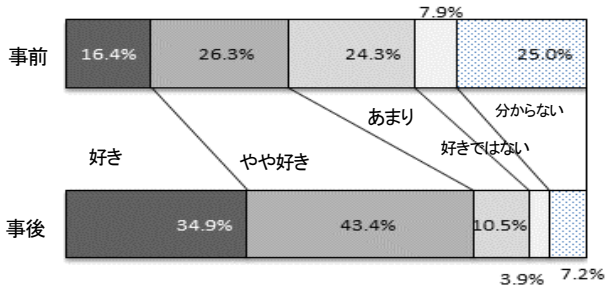
【教員の指導力向上】

専門的な指導方法について研修する教員

【生徒アンケート・実践校アンケート】

生徒（1 年生）及び実践校の事前・事後アンケート結果（抜粋）

生徒アンケート（152 名）Q　武道は好きか



実践校アンケート結果（肯定した回答数 12 校中）

学習指導要領の趣旨をふまえた授業だった（12 校）

「できる」実感を保障する内容だった（10 校）

武道に対する意欲を高める内容だった（11 校）

安全に配慮した内容だった（11 校）

教員と外部指導者の役割分担が明確だった（11 校）

教員にとって指導の参考になる内容だった（11 校）

【今後の取組の方向性】

本事業の成果と課題をふまえた教育委員会の取組について

継続的に外部指導者の協力を得られるようにするために、関係団体や市町村教育委員会との連携を図り、学校の支援体制をさらに構築していくこと。

武道の指導歴、研修歴が浅い教員の指導力、資質の向上を図る方策については、関係団体の協力により研修会を実施する等、幅広く検討していくこと。

武道・ダンス実技指導者講習会、柔道安全指導者講習会をとおして保健体育科教員の資質・指導力向上を図る取組	埼玉県教育委員会 種目等　柔道　剣道　ダンス 電話番号：０４８－８３０－６９４７ ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：a6960@pref.saitama.lg.jp

１　研究のねらい
　平成２４年度から必修となった武道・ダンスの授業を安全、円滑に実施できるよう、武道・ダンス実技指導者講習会、柔道安全指導講習会を通して、保健体育科教員の資質・指導力の向上を図り、中学校における武道・ダンスの指導の充実を図るための実践的な研究を行う。
２　研究の概要
(1) 中学校武道・ダンス実技指導者講習会の開催
(2) 中学校柔道安全指導講習会の開催

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　研究の取組体制
埼玉県武道等指導推進委員会の設置
　県教育委員会、学識経験者、県柔道連盟、県剣道連盟、県中学校体育連盟の代表者、埼玉県ＰＴＡ連合会の代表者で埼玉県武道等指導推進委員会を設置し、地域と連携した武道・ダンス指導の在り方や保健体育科教員の指導力向上等の方策について協議する。
　構成メンバー：県教育局保健体育課長、同主席指導主事、埼玉大学教授、平成国際大学准教授、埼玉県剣道連盟専務理事、埼玉県中学校体育連盟会長、埼玉県ＰＴＡ連合会理事、県教育局保健体育課同指導主事
　７月２２日、２月８日の２回実施した。
２　具体的な取組
(1)　中学校武道・ダンス実技指導者講習会の開催
　学習指導要領の趣旨を生かした、「武道」及び「ダンス」における効果的な学習指導について、実技を通して研修し、保健体育科教員の資質・指導力の向上を図るため、県柔道連盟､県剣道連盟からの推薦者や大学教授等を指導者に招聘し、柔道、剣道、ダンスの実技講習会を開催した。
(2)　中学校柔道安全指導講習会の開催
　中学校保健体育科教員等の資質と指導力の向上を図るため、講義と講演を実施した。
ア　講義
　推進委員でもある平成国際大学準教授に講師を依頼し、「体育活動時における安全対策について」として、柔道をはじめとする学校災害事故についての講義を行った。
イ　講演
　柔道授業を実施する上での安全対策及びケガや事故への対応について、一般社団法人・埼玉県医師会の協力を得て、「中学校柔道授業における脳損傷・頸部損傷と安全対策」として県内２地区で専門医による講演を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　中学校武道・ダンス実技指導者講習会において、剣道では今年度も推進委員に講師になっていただき、委員会での検討事項の伝達を直接行った。また、学習指導要領の趣旨に沿って生徒の学習の段階に応じた指導内容を研修できるように指導者と打ち合わせを行い、研修会を行った。
２　中学校柔道安全指導講習会では、頭部外傷及び頸部の事故発生要因及び発生メカニズムや、柔道授業における安全管理のポイントを医学的な立場から指導をいただいた。また、保健体育科の教員だけでなく、養護教諭にも参加を呼びかけ、体育活動時の事故の対応について教職員全体で取り組めるように配慮した。

○成果の意義と今後の課題

　武道・ダンスの講習会を実施することで、武道やダンスを専門としない保健体育科の教員が、生徒の技能の段階に応じた指導方法や、安全に配慮した授業の進め方を学ぶことができた。
　また、柔道安全指導講習会では、体育科の教員だけでなく、武道が専門ではない部活の顧問教諭や養護教諭の参加もあり、学校現場における対応を全教職員に周知する重要な機会であった。
　今後も実技講習会を継続し、授業の質の向上を図るとともに、事故の対応の知識を増やしていく講習会の企画をしていくことが課題であると考える。

研究内容

【武道・ダンス実技指導者講習会】

剣道：防具をつけての約束練習

【武道・ダンス実技指導者講習会】

柔道：投げ技からの受け身の練習

【武道・ダンス実技指導者講習会】

ダンス：新聞紙を使用しての創作ダンス

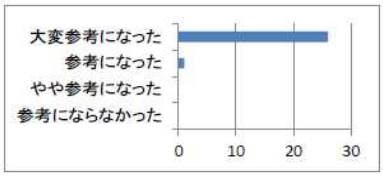
【柔道安全指導講習会】

専門医による講演

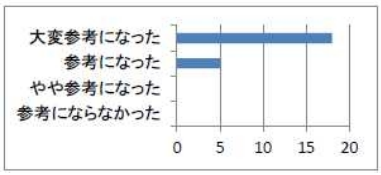
【各講習会でのアンケートのまとめ】

武道・ダンス実技指導者講習会　アンケートのまとめ

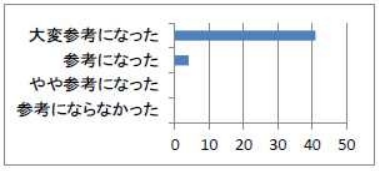
【柔道】



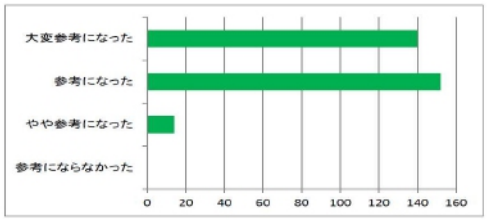
【剣道】

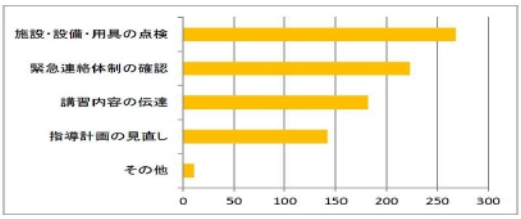


【ダンス】



柔道安全指導講習会　アンケートのまとめ　【感想】と【柔道授業への準備】





【受講者の感想】

武道・ダンス実技指導者講習会

- 技のポイントやコツが大変分かりやすかった。
- 柔道の特性や安全面について再確認と、段階を踏んだ指導個々の技量に合わせた指導を学ぶことができた。
- リズム剣道を含めた慣れの運動が大変参考になった。
- DVD を見て動きを確認し、その後に実際に動いたため、分かりやすかった。
- ダンスキーワード等、教えるポイントや授業の進め方、細かいところまで学ぶことができた。
- 新聞紙の創作ダンスの導入は大変参考になった。

【受講者の感想】

柔道安全指導講習会

- このような講習会をくり返し行うことが必要である。
- 整形外科の先生の話というのは新鮮で、より医療的に具体的な説明で参考になった。とてもわかりやすかった。
- 柔道以外、器械運動（マット）等でも、頭を打ったり、頚椎を痛めたりすることがあるので、参考になった。
- 柔道事故や脳損傷の話は参考になりました。
- 医師の細かな話、受傷により、体にどんな変化が起こって危険になるのか、とても勉強になった。
- 事故発生時の対応等、大変参考になった。

楽しく安全な 武道の授業を目指して	学校名　　能登町立能都中学校（石川県） 全校児童生徒数　１３２名（男子６８名　女子６３名） 種目　武道（相撲） 電話番号　　０７６８（６２）０１６２ 学校メールアドレス　　noto_jsc01@noto.ed.jp

1　実践研究のねらい
（1）楽しい武道の授業の実践
（2）安全な武道の授業の実践
2　実践研究の概要
（1）課題について
①相撲に対する抵抗感
②安全な用具施設の確保
（2）期待される成果について
①武道好きの生徒が増える
②傷害を減らす

○課題を解決するために実践した具体的な取り組みについて

1　具体的な取組内容・方法，取組を進める上での工夫点等
（1）相撲に通じた地域の外部指導者を活用し，入念に打ち合わせを行い，楽しく相撲ができるように授業計画を作成した。
（2）相撲パンツ，相撲マットの活用や女性競技者の招へい等を行い，相撲に対する抵抗感を取り除くよう工夫した。

近年，中学校の保健体育では，武道が必修化された。しかし，球技等に比べると武道に楽しさを感じていない生徒が多いのが現状である。生徒が武道が好きだと感じ，意欲的に授業に取り組めるようになる方法を考えた。そこで，石川県内の中学校では実践されていない相撲に焦点を当ててみた。私自身，相撲の競技経験も指導経験もなかったため，専門的な指導ができる方と連携して指導に当たることとなった。外部指導者とは授業の前後に必ず，授業内容や生徒の実態把握，学習状況等について協議する時間を確保するようにした。特に，相撲のように組み合ったり，投げたりする運動の経験が少ない生徒が多いことから，安全に配慮した計画で授業内容を展開していくことを話し合った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　押しの技能を中心に授業を進めたこと
2　禁じ技等の指導を徹底したこと
3　マット等の確保

○成果の意義と今後の課題

相撲パンツを活用することで，女子の相撲への抵抗感やまわしへの抵抗感を大きく減らすことができた。また，トップアスリート招へい事業の活用も効果的であった。相撲の女性アスリートを招へいし，実技指導や女子との取り組みを体験することで，女子の相撲への抵抗感を大きく減少させることができた。
安全面に関しては，けがをした生徒が３名おり，課題が残った。この経験を生かし，受け身技能の向上のために練習内容を工夫し，時間を確保すること，安全マットの使用量を増やすことや配置等の改良を行い，今後も安全で楽しい武道の授業を展開していきたい。

○研究内容

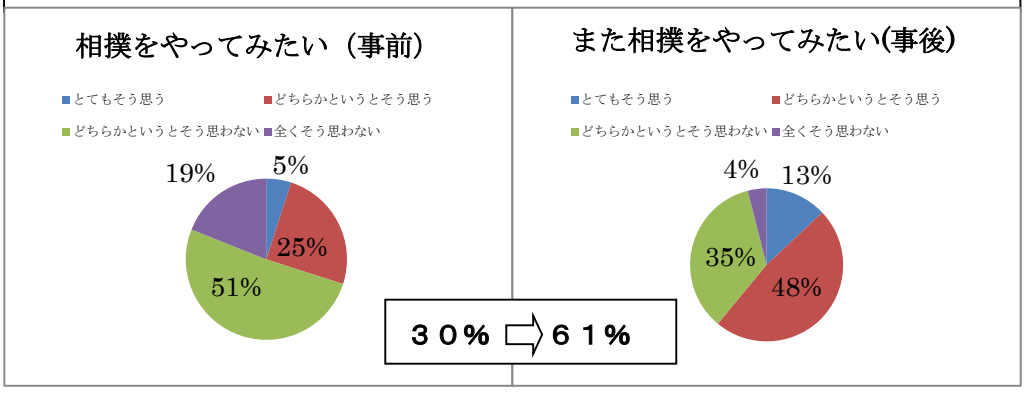
【女性競技者の招聘】
技能指導や試合を行っていただいた。

【押しの練習】
中腰の姿勢からの寄りの練習

【本格的な土俵セットでの試合】
単元の最後には、本格的な土俵をセットし、オーダー表を書いて団体戦を行った。

【相撲パンツ】
体操服のズボンの上から着用でき、ベルトがまわしの代わりとなっている。

【相撲に対するイメージ】
相撲に対する持っているイメージのアンケート調査を、単元開始前と終了後に行った。



【楽しく安全な武道の授業】
来年度も継続して相撲での武道の授業を展開していく。

昨年度，初めて相撲の授業を実施し，2 年目の取組も終了した。2 年間を振り返ってみると生徒アンケートの結果や授業者自身の感覚として，楽しい武道の授業が展開できたと感じた。今後も相撲での武道の授業を展開していきたいと考えているが，さらに生徒の意欲を高めていくための工夫をしていきたい。また，前述した通り，安全性が確保された授業を展開することもしっかりと意識していきたい。そのためにも外部指導者の確保や連携の仕方をしっかりと考えていきたい。

地域の特色・人材を生かした 「相撲」授業の取組	学校名　萩市立田万川中学校（山口県）全学年 全校児童生徒数　５４名（男子２５名　女子２９名） 種目等　武道（相撲） （本実践に係る問合せ先） 電話番号　０８３８７（３）０５５６ 学校メールアドレス tmgw556@edu.city.hagi.lg.jp

1　実践研究のねらい

（1）　地域スポーツ指導者を活用することで、生徒が相撲に関する知識や技能を学ぶとともに、地域の特色・人材を生かし、田万川地域で伝統的に親しまれてきた相撲文化の伝承を図る。

（2）　地域スポーツ指導者と連携して授業を行うことで、保健体育科教員の専門的な知識や技能の習得による指導力の向上を図る。

2　実践研究の概要

（1）課題について

学習前の相撲に対する生徒の意識は、２・３年生については、昨年度の経験もあり意欲的であったが、１年生については、「怖い」「痛そう」「はずかしい」「乗り気ではない」等の意見も多い。また、まわしの装着等服装面にも不安を抱く生徒もいる。

（2）期待される成果（仮説）について

教員の指導力の向上による授業改善は、子どもの体力や意欲の向上につながると考える。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　地域スポーツ指導者と連携した武道（相撲）授業

（1）　安全に実施するための心構えと基本動作の習得を学習の基本とした。

（2）　相撲の歴史や文化を学ぶとともに、互いに力をぶつけ合う相撲の奥深い楽しさを生徒に味わわせることをねらいとして、学習内容を精選し実施した。

（3）服装の工夫として、ジャージまたはハーフパンツの上からまわしをしめる形とした。

2　相撲大会の実施

（1）　会場や対戦表等の掲示物の準備や進行係や審判などの分担した役割に積極的に取り組むことをねらいとして相撲大会を実施した。

（2）　単に試合の勝敗を目指すのではなく、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする態度を育てることをねらいとした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　地域スポーツ指導者２名による指導で、全体指導後は、男子と女子を別々に担当し、きめ細やかな指導や支援を行った。

2　会場の工夫として、全ての授業を体育館で実施し、簡易型の室内土俵を用意し、安全の確保と授業の効率化を図った。

○成果の意義と今後の課題

1　専門的な技能と知識に基づいた指導を受けることにより、国技である相撲についての理解を深め、興味・関心を高めることができた。

2　最初は相撲に対する不安が見られた１年生女子も、地域スポーツ指導者の熱意と温かい言葉がけによって、すぐに不安が取り除かれて、意欲的な場面や様子が見られるようになった。

3　保健体育科教員にとっても、授業の展開の仕方や説明の仕方、大会運営など、大変参考になることが多く、今後の武道指導の充実に向けて、本事業の果たす役割は大きいと感じられた。

4　相撲大会については、田万川中学校の年間行事の一つとして、継続的に開催していきたい。

○ 研究内容

【取組の様子】
押し相撲や寄り相撲を重視し、土俵際で腰を割ることと、相手に対する心配りも合わせて学習した。

【基本動作の様子】
塵浄水、蹲踞、四股を毎時間、準備運動をかねて実施した。

【室内用簡易土俵使用の様子】
床にマットを敷き、その上にビニール製のシートを被せる。俵はマジックテープで脱着する仕組みになっている。

【審判の様子】
審判を経験することで、審判の手順や決まり手を学習した。うちわに進行順を書くことで安心して挑戦できた。

【授業終了時点の生徒の感想】
意欲の向上や外部指導者活用に対する肯定的な意見が多かった。

事前・事後のアンケートにおいて、運動やスポーツ・保健体育科授業に対する肯定的な回答の割合が、全ての項目で増加した。

【生徒感想】

・初めて相撲の授業を体験しました。最初はまわしを付けるのがはずかしく、うまく付けることができませんでしたが、先生方のわかりやすい指導のおかげで、自分たちだけでまわしを付けることができるようになりました。

・今回の授業を通して、相撲が「したくないランキング」から、「楽しいランキング」の上位になりました。初めての相撲体験でしたが、「楽しめた」と言えるのは、教えてくださった先生方々のおかげだと思います。来年も楽しみにしています。

・分かりやすい指導のおかげで、相撲の奥深さを感じつつ、少しずつできるようになりました。

・丁寧に分かりやすく教えていただいたおかげで「相撲をしたい」という気持ちが強くなり、毎時間、一生懸命行うことができました。

【事業終了後の取組の方向性】
～地域と連携して～

相撲の授業を指導する立場として、外部指導者と連携して授業を行うことで、授業の展開の仕方や説明の仕方や大会運営など、大変参考になることが多く、武道についての専門的知識や技能の習得が可能なことから、今後の武道指導の充実に向けて、本事業の果たす役割は大きいと感じられる。

今後も、本校のコミュニティ・スクールとしての特徴を生かし、相撲競技に対する土壌のある田万川地域と連携し、より充実した活動になるよう授業の可能性を広げていきたい。

地域の指導者の技術指導により、教員の指導力を高め、生徒の武道に対する意識を変容させた実践例	学校名　築上町立築城中学校（福岡県）　２年 全校児童生徒数　176 名（男子 91 名　女子 85 名） 種目等　武道（空手道） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　0930（52）0019 学校メールアドレス　tsuiki-jhs@sge.bbiq.jp

１　実践研究のねらい

（１）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進のあり方

（２）Step　by　Step の指導による生徒の武道に対する意識の向上

２　実践研究の概要

（１）課題について

・空手道の歴史や特性及び礼法を学ぶことを通して、武道の伝統的な考え方を理解する

（２）期待される成果（仮説）について

・試合形式で練習を行うことで、勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

○　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置

①　単元が始まる前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を実施する。

②　毎回授業実施後に、地域の指導者と今後の指導の方向性の検討をする。

（２）地域の指導者と指導の流れを確認し、step by step　で指導をする。

①　１時間目～２時間目＜空手道の歴史・特性、礼法、体ほぐしの運動など＞

・地域指導者との実演によって技を見て学べるように工夫した。

②　３時間目～４時間目＜立ち方・突き・受け・蹴り・運び足の練習＞

・地域指導者との実演による臨場感ある指導の工夫を図った。

・振り返りを行い、評価ノートを完成させ学びを確実なものにするよう工夫した。

③　６時間目～１０時間目＜基本形の習得、試合に向けた練習＞

・クラス対抗（４班の対抗戦）の試合形式を取り入れることによって、運動有能感が高まるよう工夫した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　授業前の健康観察、服装点検及び準備運動は、必ず行ってから活動を始めた。

２　組手は行わず、基本形の試合形式にした。

○成果の意義と今後の課題

１　２時間続きで、効率よく丁寧に授業が展開できた。安全面で留意すべきところを的確に分かりやすく、反復練習をしてもらったことで生徒の技能の習得率が非常に高く、興味関心も深まった。

２　クラス対抗の試合形式を取り入れたことにより、仲間と協力することの大切さ、頑張ればできるという運動有能感が非常に高まった。生徒の技の習得率も高かったので、もう少しレベルを上げた基本形も教えてほしいとの要望もあり、次年度の計画に組み入れたい。

○ 研究内容

【技の基本動作】

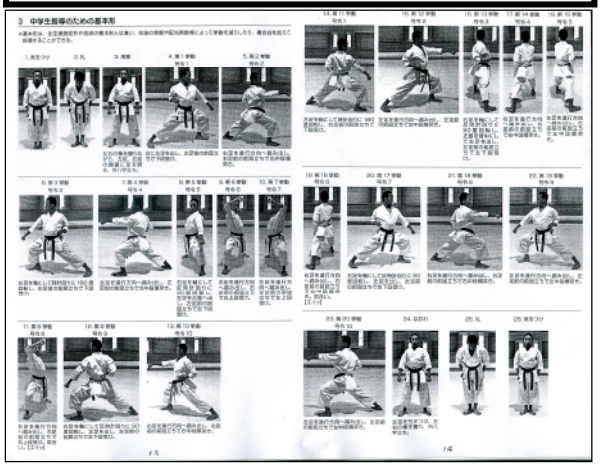
地域指導者と基本動作を確認している様子

【基本形の練習】

班別基本形の習得練習

【学習プリント】

中学生指導のための基本形

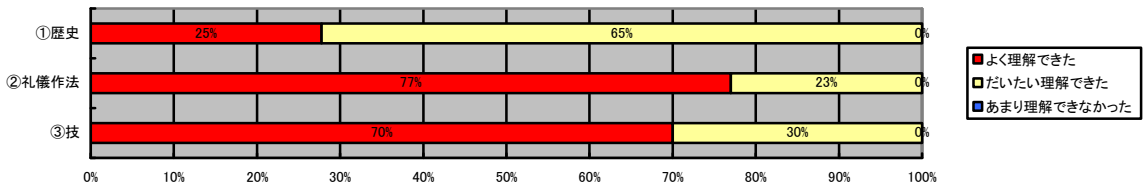


【自己評価カード】

学習の記録・評価

【授業後のアンケート】

単元の最後に、理解度のアンケートを行った



・　最初は、「痛い、殴る、恐い」のイメージが多かったが、授業を終えての感想はみんなが楽しかったと答えた。理由においては、「みんなで協力して取り組むことができた。班の人たちと息を合わせて一つのことに挑戦できた。できなかった技がどんどんできるようになった。達成感を感じ、もっと上手になってメリハリをつけたいと必死に打ち込めた。」が多く見られた。

【学校の取組の方向性】

町費での予算化で事業の継続をする。

この事業は生徒の興味関心を引き、武道の基礎となるものである。来年度もより多く地域の指導者の活用の時間が確保できるように町費での予算化もお願いしている。知識・技能、関心意欲の向上に成果の上がった分野でもあり、今後も授業内容の質・量ともに充実させていきたいと考えている。

礼法を通して人間性の高まりを 目指した「なぎなた」授業の在り方	学校名　　琴平町立琴平中学校(香川県)１・２年 全校児童生徒数　209 名（男子 107 名　女子 102 名） 種目等　なぎなた （本事例に係る問合せ先） 電話番号　0877(73)4181 学校メールアドレス(school@kotohira-j.ed.jp)

１　実践研究のねらい

武道を通して礼法を重んじた人間性の高まりを目指している。１年生時の授業で基礎技能の習得と、２年生時の授業で基礎技能を生かした「リズムなぎなた」創作を通して、なぎなたを楽しみ日本古来の武道の素晴らしさに気付いて欲しいと考えている。武道独特の凛とした雰囲気づくりを大切にし、生徒が主体的に活動し、友だちと協力することで人間性の高まりを図りたい。

２　実践研究の概要

授業を通して、日本古来の礼法を学ばせ、普段の学校生活において物や場、人を大切にする心を育てたい。外部指導者からのきめ細かい技術指導、礼法指導を通して武道を身近なものと感じ、ペア活動やグループ活動の時間を通して、他を思いやる心を育て、協調性・協力性を高めたいと考えている。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

①　礼法に関して、毎時間正しい動作を繰り返し行うよう外部指導者とともに共通理解のもと指導を行い、出来栄えを賞賛する。

②　１年生の基本技の技術習得のため、外部指導者による一斉指導を行い、担当教師は個別指導を行う。

③　ペア学習、グループ学習においてコミュニケーション能力を高められるよう話し合い活動を多く取り入れ、お互いを認め合う言動を賞賛する。

④　１年生は課題技を設け、演技会に向けて固定のペアで繰り返し練習を行う。また、演技会の運営、審判方法も外部指導者の指導のもと正式に近い形で行い、お互いの技の評価を行う。

⑤　２年生は、「リズムなぎなた」を完成させ、全校生の前で披露する機会を持つ。１曲を学年全員で協力して創り上げる目標の達成のためにグループで創作活動を行い、達成感を味わわせる。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　素足で授業を行うため足のけが防止を考え、授業のある日は７：３０から体育館のモップがけを行い、ホコリやゴミを取り除くとともに、毎時間授業前に生徒全員で床の雑巾がけを行った。

２　なぎなたの正しい扱い方を常に指導し、用具の破損の点検を毎時間行った。

○成果の意義と今後の課題

１　成果

○ 課題技を１年生の生徒全員が習得でき、２年生の「リズムなぎなた」創作活動も「全校集会での発表」が目標となり、生徒たちの練習意欲を高め、達成感を味わわせることができた。

○　練習をしていく中で生徒自身がお互いの事を考えたり、協力することの大切さを感じとったりすることが授業後の感想に表れていた。

２　課題及びその改善策

「なぎなた」に対する興味関心は年々高まっている。しかし、基本技の習得段階や「リズムなぎなた」の創作活動において自ら積極的に活動できている生徒は、まだ多くない。自分の言葉で考えを伝える経験を日頃の生活から大切にして、受け身の姿勢を変えていきたい。

○ 研究内容

【１年生：打突練習】

スネあてを付けて正しい打突部位を確認している様子。

【１年生：演技会の様子】

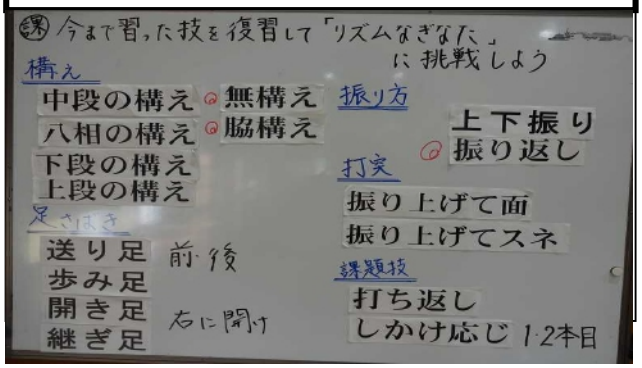
審判・進行・演技を分担して行っている様子。

【１年生：礼法指導の様子】

授業前に体育館床の雑巾がけ毎時間行っている様子。

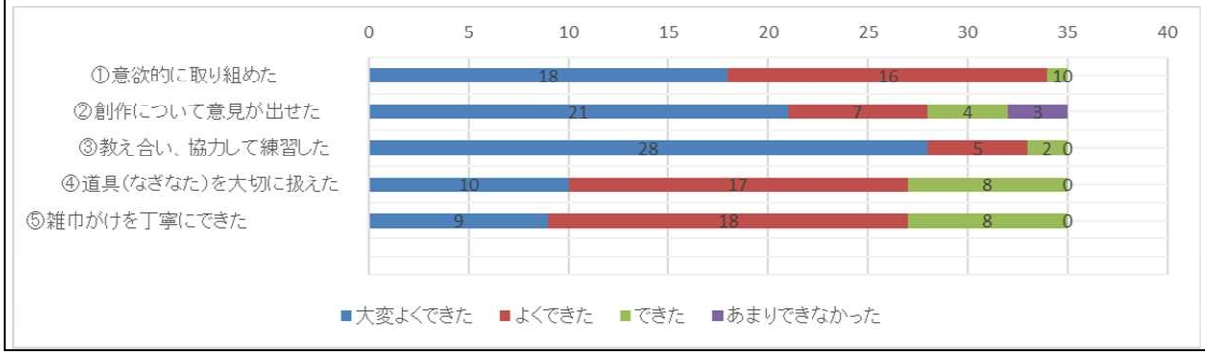
【２年生：リズムなぎなた構成上の注意】

既習の技を板書し、構成のヒントにしている。



【事後アンケート】

授業後に１年生にとったアンケートより（１年生３５名）



【なぎなたの授業を通しての生徒の成長】

学んだ礼法を学校生活に生かし、お互いを尊重し合う姿勢を大切にすることについて。

武道を学ぶ過程において、技術指導だけでなく礼法指導も重要と考えている。そこで、入室・三礼・物を大切に扱う姿勢・他を思いやる心について毎時間指導を行ってきた。今回は「授業前の雑巾かけ」「なぎなたの丁寧な扱い」についてアンケートをとった結果、授業中は意識できた生徒が多かったが、継続することが難しい生徒も多い。来年度は県の学校文化祭でのダンス発表を控えており、１年生は「リズムなぎなた」での参加を楽しみにしている。そのことを知ったなぎなた部の３年生部員が「来年の発表会に美しいなぎなたで演技をして欲しい。」と体育の授業で７年間使用したなぎなたの千段巻の部分を新しく巻き直してくれた。先輩の思いを後輩たちに伝え、お互いを思いやり、支え合い、それを行動に移す素晴らしさを大切にしていきたい。次年度以降も授業を継続して行い、日頃の学校生活の中で礼法指導が生かされることを目標としていきたい。

中央講師を招へいし、ダンスについて「楽しく効果的な指導の在り方と授業づくり」についての講習会により、教員の指導力を高めた実践例	山形県教育委員会 種目等　ダンス （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０２３（６３０）２８９４ メールアドレス　tachibanam@pref.yamagata.jp

１　実践研究のねらい

（１）本県のダンスの実施状況を踏まえ、中央講師を招へいしての講習会を開催することで、楽しく効果的な指導の在り方と授業づくりについてのさらなる教員の指導力の向上を図る。

２　実践研究の概要

（１）課題について

「現代的なリズムのダンス」を扱っている学校が多く、研修機会の充実、わかりやすい指導資料等の配布を望む声が多い。また、ダンスの専門性の高い教員が少なく、男女問わずに継続的に研修を積んでいくことが必要である。

（２）期待される成果（仮説）について

「楽しく効果的な指導の在り方とダンスの授業づくり」のポイントについて理解し、指導法の習得、資質向上と授業改善を図る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）本県のダンスの実施状況を踏まえ、「現代的なリズムのダンス」の授業づくりについての講習会の開催。

①中央講師の招聘：宮本乙女氏（日本女子体育大学　舞踊学専攻　教授）

（平成２８年９月８日　山形県総合運動公園にて）

【　講習会の内容　】

②「生徒のオリジナルを引き出す現代的なリズムのダンス」（理論編）

○現場の実態・誤解　○課題解決型のダンス授業の進め方と授業づくり

③「生徒のオリジナルを引き出す現代的なリズムのダンス」（実技編）

○ウォームアップの工夫（ぐるぐる回って自己紹介、ひょっこりひょうたん島）

○リズムも創作も８４２１から　　○ケンパーダンスでヒップホップ風に

○ロックのリズムで動く－止まる　キーワード「ビートを刻んでメリハリダンス」

（２）講習会の内容が、どの程度授業に活用できたか、受講者へのフォローアップ調査の実施

（１月下旬～２月上旬に実施）

○成果の意義と今後の課題

１　本県の実施状況（６～８時間で単元を構成し、現代的なリズムのダンスを取り上げている学校が多い）を踏まえ、「生徒のオリジナルを引き出す現代的なリズムのダンス」の８時間での単元構成における各１時間の授業の進め方について学ぶことができた。また、講師の指導のもと、受講者全員が実際に生徒の立場で、ダンスの楽しさやポイントを体験することができ、これから授業をする際のヒントを得ることができた。今後は、今回学んだことを各学校での授業に活用し、楽しさに触れることができるダンス授業を展開していくことが望まれる。

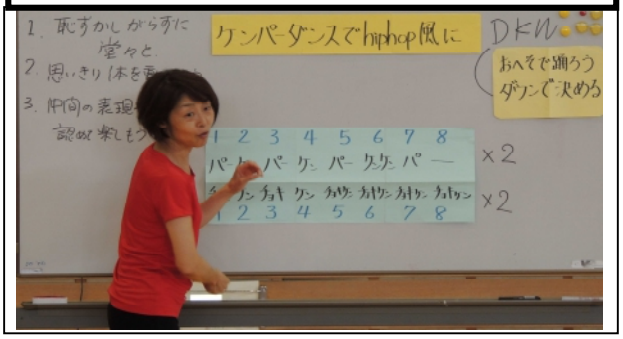
○ 研究内容

【ウォーミングアップの工夫】

ひょっこりひょうたん島（リーダーにつづけ 誰もが提案者）

【生徒のオリジナルを引き出す現代的なリズムのダンス】

ケンパーダンスでヒップホップ風に



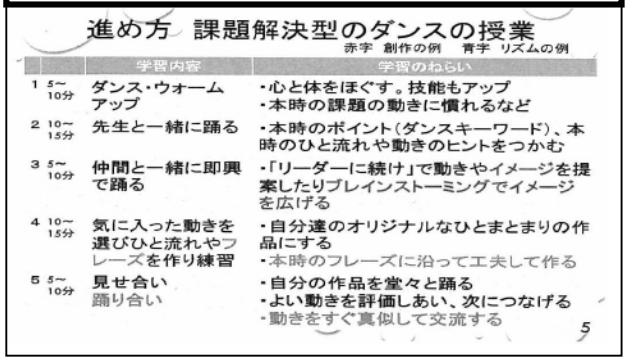
【生徒のオリジナルを引き出す現代的なリズムのダンス】

ロックのリズムで動く一止まる（床に座ってリズムをとる）

【生徒のオリジナルを引き出す現代的なリズムのダンス】

課題解決型のダンス授業の進め方

（講習会資料より）



進め方 課題解決型のダンスの授業

赤字 創作の例　青字 リズムの例

		学習内容	学習のねらい
1	5～10分	ダンス・ウォームアップ	・心と体をほぐす。技能もアップ ・本時の課題の動きに慣れるなど
2	10～15分	先生と一緒に踊る	・本時のポイント（ダンスキーワード）、本時のひと流れや動きのヒントをつかむ
3	5～10分	仲間と一緒に即興で踊る	・「リーダーに続け」で動きやイメージを提案したりブレインストーミングでイメージを広げる
4	10～15分	気に入った動きを選びひと流れやフレーズを作り練習	・自分達のオリジナルなひとまとまりの作品にする ・本時のフレーズに沿って工夫して作る
5	5～10分	見せ合い 踊り合い	・自分の作品を堂々と踊る ・よい動きを評価しあい、次につなげる ・動きをすぐ真似して交流する

5

【講習会参加者の状況およびアンケート結果】

講習会参加者へのアンケート調査・フォローアップ調査から

【参加者の状況】（２８名）

◆ダンスを指導する上で課題となること

記載あり	２７	記載なし	１

◆ダンス指導の手引き

活用している	６	活用していない	２２

◆ダンス指導のための映像資料(DVD)

活用している	４	活用していない	２４

【フォローアップ調査】（１月～２月　回答２２名、③⑧⑨は２１名）

４：大変役に立った　　３：役に立った

２：あまり役に立たなかった　　１：役に立たなかった

質　問　項　目	4	3	2	1
①講習内容は、今年度の指導に役に立ちましたか	１８	４	０	０
②ウォーミングアップの内容	１６	５	１	０
③１時間の授業の流れ	１５	６	０	０
④単元の構成（単元指導計画）	７	１５	０	０
⑤講習会で使用した音楽の活用	１５	６	１	０
⑥指導者の声がけ	１２	１０	０	０
⑦ダンスキーワードの提示	１３	９	０	０
⑧発表会のさせ方	１１	１０	０	０
⑨ダンスカードの活用	９	１１	１	０

【講習会後の感想】

・「ダンス指導に対する抵抗がかなり減った。」

・「簡単（平易な）動きからどんどん発展させて、グループで１つのものを完成させていく楽しさを体験することができました。８ビート、１６ビートのリズム、創作体験は、すぐに授業に生かせると思いました。教師側の声がけの大切さ、たくさんの引き出しをもつことの大切さを改めて感じました。とてもわかりやすい講習会でした。」

・「先生の一言で生徒の表現やはじけ具合が変わると思いました。宮本先生は、子どもたちを動かせるのに大切な言葉をたくさん投げかけ、勉強になりました。今年の授業は、昨年までにやっていた中身と変えて、今回受講した内容を取り入れて実践していきたいと思います。」など、参加者全員から前向きな感想が見られた

【各学校における授業改善に向けて】

生徒のオリジナルを引き出し、楽しく主体的に取り組むダンス授業の実践

本県が推進する探究型学習の視点に立ち、「生徒のオリジナルを引き出し、生徒が楽しく主体的に取り組むダンス授業」を各中学校で実践できるようにしていきたい。

地域の指導者との連携で技術指導を充実させた実践	学校名　新城市立鳳来中学校（愛知県）　３年 全校生徒数　238 名（男子 120 名　女子 118 名） 種目等　ダンス（現代的なリズムのダンス） 電話番号　０５３６（３２）００１２ 学校メールアドレス horai-jh@city.shinsiro.ed.jp

１　実践研究のねらい

（１） 専門的な技能や知識をもつ地域の指導者による適切な技術指導によって、生徒の技能を向上させる。

（２）地域の指導者と協力して指導することによって、教員の指導技術の向上を図る。

２　実践研究の概要

（１）地域の指導者との協力体制の充実を図る

授業を実施するにあたり、事前に授業の単元構想や指導内容等について地域の指導者と具体的に打ち合わせを行うことで共通理解を深め、授業実践に向けて計画的で有効な準備をする。

（２）地域の指導者による専門的、具体的な指導によって得られるもの

①　全身を使いダンスで表現することの楽しさを味わうことができる。

②　ヒップホップの基本的なリズムのとり方やステップを身に付けることができる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）指導内容（各クラス）

①　現代的なリズムのダンスのステップやリズムにのって踊る（１時間）

②　動きづくり・気に入った動きをいくつかつなげて仲間と踊る（２時間）

③　動きにアクセントを付けたり、隊形を変化させたりしてオリジナルのダンスを踊る（５時間）

（２）指導体制

①　地域の指導者がいる時間は、グループごとにダンスを作り上げていく時間として指導者がグループを回りながら作品作りを進める。指導者がいない時間は、グループごとにこれまでの学習の反復練習や他グループの発表を見合って、技能を高め合う活動をしていく。

②　生徒管理、授業規律の遵守、学習内容の確認や振り返り、生徒への指示は教師が行うものとし、実技指導に関する具体的な部分については地域の指導者が行うようにする。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

１　ダンスに適した準備運動をする

・授業始めにリズムに乗って体を動かすリズムラダーや曲を流しながらストレッチを行った。

２　用具や練習場所などの自己や仲間の安全に留意する

・踊る際の音響器具の置き方や小道具の扱い方を示し、安全に取り組めるようにした。

○成果の意義と今後の課題

１　専門的な知識や技能をもつ地域の指導者による実技指導を受けることで、生徒に興味・関心をもたせ、リズムダンスの醍醐味を体得させるとともに生徒の技能を向上させることができた。

２　専門的な技能を有する講師の指導を授業に取り入れることによって、教員が指導技術や指導方法を身に付ける研修の場としての成果があった。

３　タブレット端末を用いて自分たちのダンスの動画を見直す場面を増やすことで、お互いにアドバイスをする場面が多く見られ、技能や完成度も高めることができた。

【地域の指導者による技術指導】

ヒップホップの技術指導を受ける生徒

【創作活動】

タブレット端末でダンスを確認する生徒

【グループ練習】

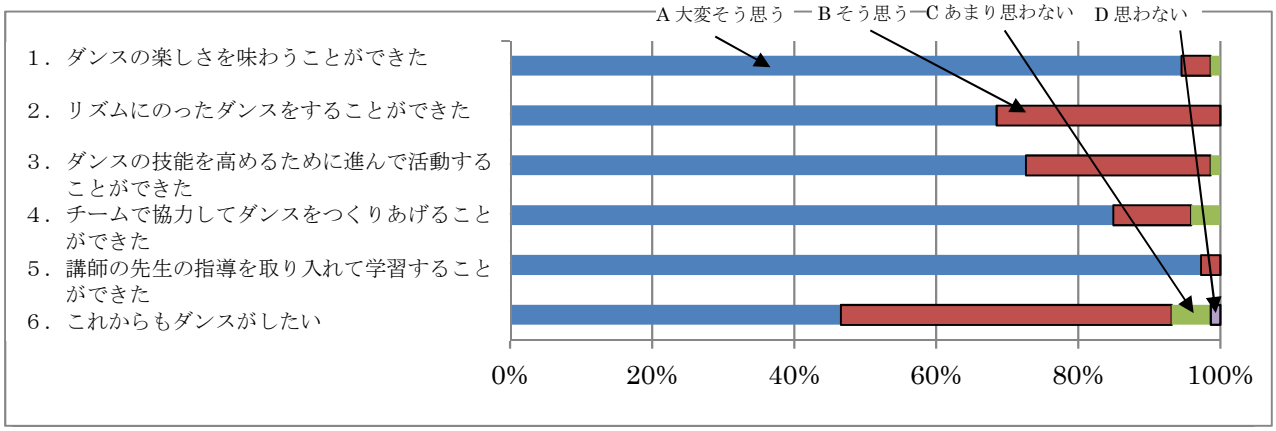
アドバイスをしながらダンスを作る生徒

【舞台発表】

鳳祭（文化祭）でのステージ発表

【ダンスの授業に対する生徒へのアンケート結果】

実施学年　３年７３名のアンケートを取りまとめた結果



【授業に向けて専門性のある講師を導入】

教員が指導技術や指導方法を身に付ける研修の場

本校では、毎年鳳祭（文化祭）で３年生がダンスを発表することになっている。本実践のまとめとして、鳳祭での発表を位置づけて授業を実践した。チームごとに個性あるダンスを披露し、そのダンスのレベルの高さに地域の方々や保護者から驚きの感想が寄せられた。授業後の生徒アンケートでは、「ダンスの楽しさを味わうことができた」という設問に対して、肯定的な回答が 98%得られた。生徒の授業に対する満足度が非常に高いことがよく分かった。専門的な技能を身に付けている指導者と教員が協力して授業を行うことで、生徒の技能向上が顕著な質の高い授業実践ができた。今後も専門的な技能を有する地域の講師を招き、授業実践をしていきたい。

外部指導者を活用し、創作ダンスの指導力を高めた授業実践例	学校名　武雄市立武雄北中学校（佐賀県）１年 全校児童生徒数　１０３名（男子５４名　女子４９名） 種目等　ダンス（創作ダンス） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０９５４（２７）２００４ 学校メールアドレス　takeokita-j@mail.saga-ed.jp

１　実践研究のねらい

（１）外部指導者と連携し、踊る楽しさを味わえる創作ダンスの授業の在り方を探る。

（２）創作ダンスの段階的な指導方法を工夫し、教員の指導力の向上を図る。

２　実践研究の概要

（１）課題について

指導歴や研修歴が浅い保健体育科の教員の指導力や資質能力の向上に努めることが必要である。そのために、外部指導者と連携して授業づくりや授業実践に取り組む。

（２）期待される成果（仮説）について

豊かな経験と優れた指導力を有する外部指導者と連携し、ティームティーチングを行うことで、生徒が意欲的、主体的に創作ダンスの授業に取り組むことができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）単元計画、指導内容の工夫

①　生徒にとって、これまで経験の少ない領域であることから、まず興味・関心を引き出すことができるようにして、教えたい内容が身に付けられるよう配慮した。そこで、ダンスの学び方の約束として、「恥ずかしさに負けない、大きく動く」、「パクリ OK、パクられ素敵」、「楽しいは伝染する」の３つを挙げ、消極的にならずに、主体的に表現することができるようにした。

②　生徒の思考の傾向として、「ダンスはかっこよくなければならない」や「振り付けをきっちり踊らなければならない」という意識が強いと推察されるため、失敗や恥ずかしさに対する配慮が必要であると考えた。そこで、単元の前半に「じゃんけん」や「忍者ダンス」、「新聞紙ダンス」等を取り入れ、即興的な表現のイメージをもたせるようにして、創作活動への抵抗を減らすよう工夫を図った。

（２）学習カードの活用

①　動きの質を高めていくために、交流や模範となる動きを通して発見したアイデアや動きを学習カードに記録し、よりよい動きの参考資料として活用させた。

②　毎時間の活動の中で、いい動きをしていた人を見つけ、必ずカードに記入させるようにした。そうすることで、集団の支持的風土を高め、更に意欲的に参加できる授業づくりを目指した。

（３）グループ活動の工夫

①　単元前半は、さまざまな生徒同士でペアやグループを作り、いろいろな人の動きが参考になるようにしたり、即興的に表現することに対する抵抗感を減らしたりするよう配慮した。

②　単元後半は、教員主導でグループを固定した。そこで、積極的な学び合い、教え合い活動ができるように２グループを兄弟班とし、お互いにアドバイス等ができるようにした。また、タブレット端末で動画を撮影し合い、気付きを伝え合ったり、自分たちの構成の参考にしたりして、援助し合えるように学習形態を工夫した。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　準備運動は、音楽を流し、軽快な雰囲気で体と心がほぐれるよう配慮して行った。
2　人と接触することも多い創作ダンスにおいては、安全に配慮し、全員、裸足で活動を行った。

○成果の意義と今後の課題

1　外部指導者との打ち合わせを綿密に行うことができ、目標や毎時間の指導内容、役割分担等が明確になったことで、円滑に授業を進めることができた。
2　指導経験が豊富で、高い専門的知識や技能を有する外部指導者の一つ一つの動きや、生徒に対する言葉かけなど、教員が指導技術や指導方法を身に付ける絶好の機会となった。
3　グループ活動において、意見を出し合ったり、もがいたりしながら一つの作品を作り上げていく過程で、創作ダンスの価値を感じることができた。指導方法次第では、言語活動の深まりも期待できる。
4　グループごとの創作活動において、ICT 機器（タブレット）を活用した。振り付けや隊形等の動画を撮影し、授業のまとめでその動画を見ながら外部指導者に解説を入れてもらい振り返りをすることによって表現の仕方の工夫点等を全体で共有できるなど効果的に活用することができた。
5　兄弟班のアドバイス活動においてもタブレットを活用した。活動の停滞につながったり、見ることに集中してアドバイスが不十分であったりと利活用に課題が残った。ICT の有効な利活用について今後、継続して研究を深めていく必要がある。

○ 研究内容

【踊る楽しさを伝える】

心ほぐし、教員・外部指導者も一緒に

【興味・関心を引き出す段階的指導】

さまざまな即興創作を行い、イメージづくり

【学習カードに記録】

他人の良い動きに気付き、アイデアの貯金箱に

【ICT の利活用】

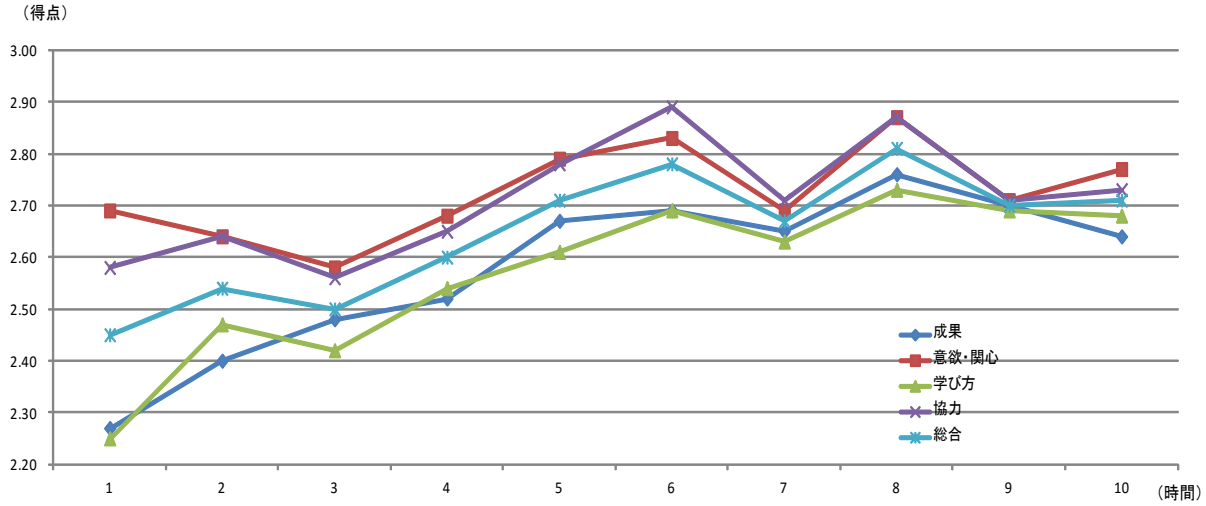
学びの資料になるよう効果的な利活用の方法を探る

【単元過程における形成的授業評価の推移】

得られた評価を授業の成果の参考とし、授業改善等につなげ、指導技術の向上につなげる

毎時間の授業後に、形成的授業評価の調査を、学習カードに記載する形式で実施した。各項目の「はい」「どちらでもない」「いいえ」の該当する場所に〇をつけさせた。各項目について、「はい」に３点、「どちらでもない」に２点、「いいえ」に１点を与えて平均点を算出した。

時間目	1時間目		2時間目		3時間目		4時間目		5時間目		6時間目		7時間目		8時間目		9時間目		10時間目	
	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価	得点	評価
成果	2.27	3	2.4	3	2.48	4	2.52	4	2.67	4	2.69	4	2.65	4	2.76	5	2.7	5	2.64	4
意欲・関心	2.69	3	2.64	3	2.58	2	2.68	3	2.79	3	2.83	4	2.69	3	2.87	4	2.71	3	2.77	3
学び方	2.25	2	2.47	3	2.42	3	2.54	3	2.61	4	2.69	4	2.63	4	2.73	4	2.69	4	2.68	4
協力	2.58	3	2.64	4	2.56	3	2.65	4	2.78	4	2.89	5	2.71	4	2.87	4	2.71	4	2.73	4
総合	2.45	3	2.54	3	2.5	3	2.6	4	2.71	4	2.78	5	2.67	4	2.81	5	2.7	4	2.71	4



【ダンスフェスティバルでの発表】

みんなで一つの作品を創り上げる楽しさ、表現する喜びを感じた「創作ダンス」の授業

体育の授業で取り組んでいた創作ダンスを「小・中・高 Saga ダンスフェスティバル」で発表した。このフェスティバルは、県内の小・中・高・一般など様々な団体が練習の成果を発表する伝統的な大会である。授業の一環として、こういう大きな舞台を目指して取り組むことは、生徒たちの意欲の向上にもつながり、それぞれのグループでの創作活動が活発になるなど、効果的であった。今後も、生徒の力を伸ばしていけるような指導技術を身に付けるべく研鑽に励みたい。

（生徒の感想から）

・「ダンスで学んだことは、人に感動を与えるには自分が一生懸命に取り組むことが大切だということです」

・「ダンスの練習をしている時の時間はとっても楽しく、自分らしさを発揮することができていたような気がしました。『これがダンスの楽しさなんだ』と思うことがたくさんありました。」

体育、保健体育科を指導する教員の 資質向上・指導力強化を目指した取組	学校名　茨城県教育委員会 対象教員数　1523 名　　対象児童生徒数　984 名 指導資料集作成，講習会，講演会，アドバイザー派遣 （本事例に係る問合せ先） 電話番号　029（301）5353 代表メールアドレス hotai@pref.ibaraki.lg.jp

1　本事業のねらい
（1）児童生徒の運動・スポーツへ関心や意欲の喚起、運動嫌いな子供の減少、学習指導要領のねらいの実現に向けて、体育、保健体育を指導する教員の資質向上・指導力強化を図る。
2　本事業の概要
（1）学校体育推進委員会を設置し、学校体育等の課題について協議し、学校体育指導資料を作成する。
（2）学校体育実技指導者講習会を実施し、教員の体育、保健体育の授業改善を図る。
（3）学校体育講演会を実施し、学校の中核となる教員の資質向上を図る。
（4）小・中・高等学校に、専門的な知識と技能を有するアドバイザー（大学教授等）を派遣し、教員の資質向上・指導力強化を図る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　体育の指導を苦手とする小学校教員や中・高等学校保健体育科若手教員の授業改善につながる学校体育指導資料の作成、配布
①　小学校：器械運動系の感覚つくりの運動例の紹介
②　中学校：球技におけるメインゲームにつながるタスクゲーム、ドリルゲーム等の提案
③　高等学校：オリンピック・パラリンピック教育に関する授業の提案
2　効果的な指導方法や授業展開、教材・教具の活用、運動嫌いな子供を減少させる体育指導などについて提案する学校体育実技指導者講習会の実施【対象教員：475 人】
・小、中、高等学校を対象に、表現運動や球技等において、理論を含め実技指導を行った。
3　学習指導要領の趣旨や今後の体育、保健体育の方向性、体育活動中の事故防止など、学校体育の充実・改善につながる講演会の実施【対象教員：825 人】
①　小学校：テーマ「優れた体育授業と学級経営」　　国士舘大学　教授　細越淳二氏
②　中学校：テーマ「体育、保健体育科における指導と評価の一体化について」
茨城大学　准教授　吉野　聡氏
③　高等学校：テーマ「求められる資質・能力の育成を目指す体育の学習に向けて」
文部科学省　国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部長　今関豊一氏
4　各小・中・高等学校のニーズに合った、専門的な知識と技能を有するアドバイザー（大学教授等）の派遣
【対象：小・中・高等学校教員：223 人、対象児童生徒：984 人】

○成果の意義と今後の課題

1　器械運動系の「感覚つくりの運動」の指導資料、球技におけるタスクゲーム、ドリルゲーム例の提案、オリンピック・パラリンピック教育の授業の実践例を提案をした。今後、研修会等で、積極的な活用を促していく。
2　学校体育実技指導者講習会では、具体的な授業の進め方など、教材・教具の活用方法などを含め、実技を中心に充実した研修ができた。今後、更に指導力強化を図っていく必要がある。
3　学校体育講演会では、各校種の体育主任が参加した。実践事例や教材づくり、次期学習指導要領の理解等について研修を深めることができた。研修後は、体育主任が、各校で研修内容を確実に伝えるとともに、今後の授業や体育活動に活用することとしている。
4　小・中・高等学校にアドバイザーを派遣することにより、具体的な指導方法などについて教授してもらい、体育・保健体育の教員のみならず体育の免許を持たない教員の資質向上・指導力強化を図ることができた。今後も、特に小学校においては、体育指導における、資質向上・指導力強化は重要であると考える。

研究内容

【学校体育推進委員会】

体育・保健体育を指導する教員の資質向上，指導力強化，学校体育指導資料の作成

【学校体育講演会】

「優れた体育授業と学級経営」（小学校）をテーマとした講演会の実施

【学校体育実技指導者講習会】

ベースボール型の講習会

【アドバイザー派遣】

ボール運動，ダブルバウンドテニス（１～３年）の指導

【学校体育実技指導者講習会，学校体育講演会の受講者からの感想，小・中・高等学校へのアドバイザー派遣に関する児童・教師の感想及びアンケート結果】

1　学校体育実技指導者講習会における受講者の感想から

・理論面、実技面とも理解できた。導入から主運動までの流れや活動方法を例示してくれたので、今後に生かしたい（表現運動）

・フラッグ・フットボールの授業の考え方、簡易的なゲーム等の理解ができたので、２学期に実践したい。（ゲーム・ボール運動）

2　アドバイザー派遣に関する感想とアンケート結果

教師

・苦手意識をつ児童に対しての、段階的な手立てを知ることができた。

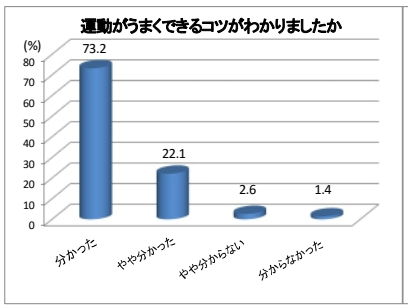
・教具の工夫や意欲を高めるルールの工夫など、体育授業を実践していく上で、参考となる内容でした。

児童

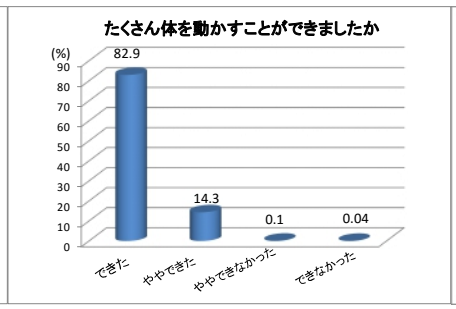
・アドバイザーの先生の説明が分かりやすかった。教えていただいたことを、ボールスローの時に試したい。

・足を速く動かすコツや、大きくジャンプする幅跳びのコツが分かった。

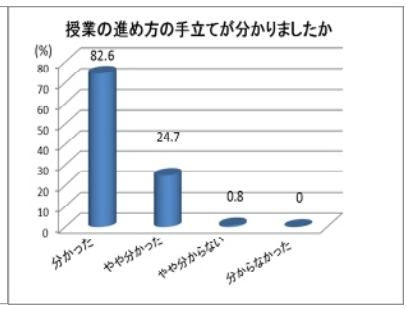
※体育授業アドバイザー派遣事業にかかわった児童の約 97%、教師の約 99%が肯定的な回答であった。



（児童）



（児童）



（教師）

体育専科教員を中心とした 組織的・系統的・効率的な体育授業の 実践例	学校名　渋川市立渋川西小学校（群馬県）全学年 全校児童生徒数　188 名（男子 98 名　女子 90 名） 種目等　全領域 （本事例に係る問合せ先） 電話番号　0279（24）2876 学校メールアドレス nishi@shibukawa-nishi-e.ed.jp

1　実践研究のねらい

（1）体育専科教員を中心に体育授業を組織的に実践し、教員の指導力の向上を図る。

（2）年間指導計画を系統・効率の面から見直し、指導の積み重ねを図るとともに、児童の活動時間を確保する。

（3）外部指導者等の活用により運動活動を充実させ、児童の関心・意欲を向上させる。

2　実践研究の概要

（1）　全学年・全学級における体育専科教員と担任による TT 授業の実施

（2）　系統性、効率性の視点による年間指導計画や指導内容の見直し

（3）　学校全体としての運動時間及び機会の確保

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）　教職員の指導力の向上

・TT による指導により、指導方法や技能のコツなどを担任に伝えるようにした。

（2）　効率的・系統的な指導の実施

・単元の実施時期を全学年で統一し、用具の準備・片付けの負担を削減した。

（3）運動活動の充実と、児童の関心・意欲の向上

・外部指導者(トップアスリート)の指導により、運動についての興味・関心を高めた。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　体育専科教員と担任による TT での体育授業を実施する上で、体育専科教員と担任で当該学級の実態等について綿密に打合せを行った。授業では役割を分担し、複数の目で指導や補助に当たった。

2　担任との TT による授業を実施する上で、児童の実態や指導すべき内容、指導のポイントなどを伝え、児童が段階的に安全に活動に取り組めるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1　全学級の担任が体育専科教員との TT による体育の授業を実施することで、技能のポイントの示し方や指導方法、教材・教具、場の工夫などを全ての教員が共有し、指導に生かすことができた。それにより、担任の体育授業における指導力が向上した。

2　年間指導計画を見直し、単元の実施時期を全学年でそろえたことで、準備・片付けの負担が軽減し、児童の活動する時間を増やすことができた。また、用具の準備の仕方などの写真を掲示することで、児童の安全面や活動の効率を考えた指導につながった。

3　外部指導者による専門的な指導・助言により、児童の実態に即した的確なアドバイスをいただけた。それにより、児童の興味・関心が高まり、喜びや達成感を味わわせることができた。

4　体育の指導を「得意」と感じている教員の割合が増えた。アンケートでは TT での指導を通して技能のポイントなど参考になったという意見があった。今後も専科が積極的にサポートし、担任の体育授業における指導力向上につなげていきたい。

○ 研究内容

【体育専科教員と学級担任の TT】

体育専科教員による技能のポイントを明確にした指導

【用具の準備・片付けの負担低減】

写真を掲示して、担任の先生や児童にも分かりやすくした

【外部指導者による指導①】

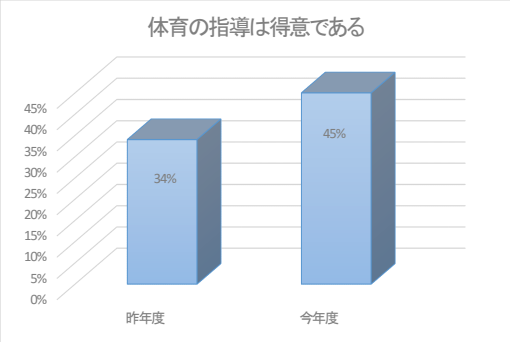
基本的な投げ方の全体練習

【外部指導者による指導②】

児童の実態に即した的確なアドバイス

【教員へのアンケートの結果】

体育の指導に関して昨年度よりもよい結果が得られ、担任の体育授業における指導力の向上が見られた。



専科が配置され２年目となり、昨年よりも体育の指導を得意と感じる教員の割合が増えた。アンケートでは TT での指導を通して、「技能のポイント、評価規準、指導法や教材・教具」について参考になったという意見が多くあった。今後さらに研修を積み、担任が苦手意識を無くし、自信を持って指導に臨めるようにしていきたい。

【学校全体での共通理解】

体育専科教員を中心に学校全体で指導の方向性を決め、さらなる指導力向上を目指す。

昨年度に引き続き、全ての学級担任が体育専科教員との TT で体育授業を行いながら、授業づくりについて学び、指導に活かすことができた。これにより教員の指導力向上を図ることができた。今後は、さらに体育指導に関わる掲示や教具を充実させるとともに、指導方法や技能のポイントなどをまとめ、学校全体で共通理解を図り、担任の体育授業におけるさらなる指導力の向上を目指していきたい。

小中連携、地域の大学との連携で教員の指導力の向上や運動きらいの子どもを減らすことができた実践例	学校名　高崎市立南八幡中学校（群馬県）全年 全校児童生徒数　１８５名（男子９６名　女子８９名） 種目等　全領域 （本事例に係る問合せ先） 電話番号　027(346)2337 学校メールアドレスminamiyawata-chu@ted.city.takasaki.gunma.jp

1　実践研究のねらい

（1）中学校保健体育科教諭がコーディネーターとなって校区の小学校と連携し体育の授業づくりを行うことで、小学校学級担任と中学校保健体育科教諭の体育授業における指導力向上を図る。

（2）中学校において、大学と連携して、生徒の技能、関心・意欲、及び教員の指導力向上を図る。

2　実践研究の概要

（1）小学校学級担任と中学校保健体育科教諭とのＴＴ指導による小学校の体育授業を行うことで、授業充実を図ると共に小中相互の教員の指導力向上を図る。

（2）中学校において、地域の大学と連携して行事運営や体育的活動を行うことで、専門的な知識や指導方法を学ぶ機会を設定し、指導力の向上を図る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）小学校学級担任と中学校保健体育科教諭による小学校の体育授業の実施

①小学校の全学級担任を対象に体育の指導で不安のある領域等に関する意識調査を行い、調査の結果から重点的に指導を行う学年・領域を選定し、小学校学級担任と中学校保健体育科教諭によるＴＴ指導を行った。

（2）地域の大学との連携による指導

①地域の大学と連携し、ケガ防止や疲労回復しやすい体作りのためのストレッチについて講師や大学生が生徒へ指導を行った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　小学校学級担任と中学校保健体育科教諭とで児童の実態等について共通理解を図った上で、技能に応じた活動の場を設定し、ＴＴ指導により役割を分担し安全に運動ができるようにした。

2　中学校における大学と連携した指導において、ケガ防止や疲労回復しやすい体作りのためのストレッチのポイントなどを大学生から的確に指示してもらい、安全に運動へ取り組めるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1　中学校保健体育科教諭と小学校学級担任による小学校の体育授業を行うことで、小中相互の指導力の向上が図れたとともに、運動きらいの児童を減らすことができた。

2　中学校において大学と連携した指導を行うことで、生徒自身が体作りについての理解を深め、ストレッチのポイント等を意識して運動できるようになった。また、中学校保健体育科教諭が体育授業での指導において課題の設定や助言に生かすことができた。

3　健康に関することについて大学の専門的な立場から指導してもらうことで、生徒の健康への意識の向上を図ることができた。

4　今回の指導体制をさらに充実させ、今後も継続していくことで、生徒の体力向上について成果を上げていく必要がある。

○ 研究内容

【小学校における授業参加】

中学校保健体育科教諭がＴ２として体育授業に参加

【中学生による小学校陸上競技大会練習会への協力】

中学生の先輩が小学生の後輩を指導

【大学との連携①】

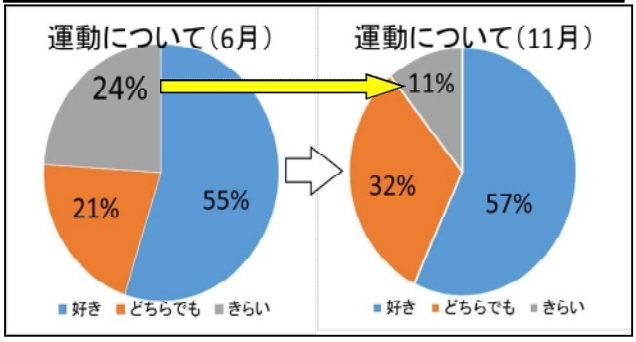
正しいストレッチの姿勢を学ぶ

【大学との連携②】

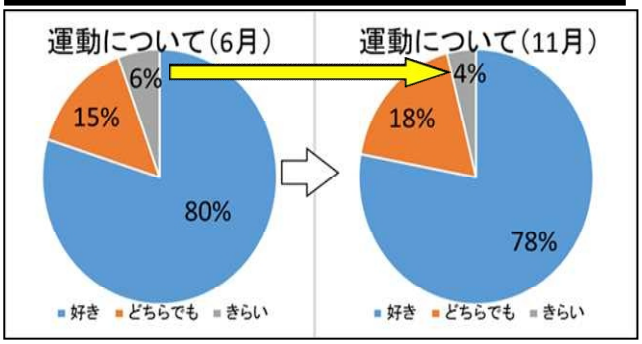
ストレッチで疲労回復させる

【小学生へのアンケート結果】

６年生女子の「運動きらい」の減少



全校児童における「運動きらい」の減少



【連携による指導力の向上】

小中連携や近隣大学との連携を活用し、教員の指導力を向上させる

中学校保健体育科教諭が小学校の体育授業に関わることで、小中相互の教員の指導力の向上を図るとともに、運動きらいの児童を減少することができた。また、中学校においては大学と連携した取組によって、生徒の体作りの意識を高めたり、技能の向上が見られたりした。今後も小中連携や地域の大学との連携を図り指導に当たることで、児童生徒に対し運動の楽しさを味わわせるとともに、小中相互の教員の指導力の向上を図っていきたい。

外部指導者と連携した体つくり運動の指導の実践例	学校名　佐賀市立金立小学校（佐賀県）４年 全校児童生徒数　235 名（男子 123 名　女子 112 名） 種目等　体つくり運動 （体ほぐしの運動・多様な動きをつくる運動） （本事例に係る問合せ先） 電話番号　０９５２－（９８）―１１６１ 学校メールアドレス　skinryu@city.saga.lg.jp

１　実践研究のねらい

（１）外部指導者と連携しながら授業を構成し、児童一人一人が運動を好きになるように働きかける。

（２）体つくり運動における教員の指導力と資質向上を図る。

２　実践研究の概要

（１）課題について

①　運動への興味・関心と運動の技能は二極化傾向にあり、運動が苦手な児童は運動の経験がかなり少なく、体育の授業に対してもネガティブなイメージをもっている。

②　本校では、各学年の教育課程において体つくり運動を位置づけているが、授業の構成は指導者の経験による部分が大きく、体つくり運動のねらいや内容を十分に理解できていない教員もいる。

（２）期待される成果（仮説）について

①　外部指導者と連携して児童の実態を詳細に見取り、児童の実態に沿った運動の提示や場の工夫を行うことで、運動への児童の興味・関心が高まるだろう。

②　体つくり運動の教員研修や資料配布を行い、体つくり運動について学ぶ場を提供することで教員一人一人の指導力向上を図ることができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

１　具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（１）児童の実態に沿った運動の提示や場の工夫

①　アンケート結果や児童の様子を外部指導者と話し合いながら分析を行い、児童の実態を適切に把握し、実態に合わせた運動や場を提示した。

②　誰もが運動を楽しむことができるように、難易度別の場を用意し、自分の力に合った運動を選べる環境を準備した。また、児童の主体的な学びにつながるように、児童自身で難易度を調整できる場を準備した。

③　達成型の場を仕組み、自分なりの記録の向上を実感させることで意欲の持続化を図った。

（２）退職教員である外部指導者と連携することで、教員の資質向上を図る

①　外部指導者から、体つくり運動のねらいや考え方、年間指導計画の作成の仕方などについて指導を受けながら授業づくりを行った。得た学びを資料にまとめ、全職員に配布することで体つくり運動について学ぶ機会を提供した。

②　体つくり運動における研修を本校で開催し、本校の教員に多く参加してもらうことで、体つくり運動について話し合う場を提供し、教員の資質向上を図った。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1　難易度別の場を用意し、自分の力に合った運動を選べる環境を準備した。
2　ゴム紐やマットなどの用具を使い、児童にとって安全・安心な場づくりを心がけた。

○成果の意義と今後の課題

1　外部指導者と話し合いながら児童の実態を詳細に把握し、実態に沿った運動の提示や場の工夫を行うことで、運動への児童の興味・関心が高まり、体育の授業や運動に好意的なイメージをもつ児童が増えた。
2　外部指導者から、体つくり運動のねらいや考え方、年間指導計画の作成の仕方などについて指導を受けながら授業づくりを行ったことで、中核となる教員の資質向上が図られた。また、その学びを資料として職員に配布したり、研修を行ったりしたことで全職員が体つくり運動について考える機会を提供することができた。
3　達成型の場を仕組んだことにより児童の意欲は向上したものの、達成を目指すことに意識が集中し、児童の動きが広がる場としては有効ではなかった。児童の意欲を引き出し、かつ児童の動きを広げていくような場づくりが望まれる。また、教師が「動きの洗練化＝記録の向上」と捉え、授業を構成していたが、動きの洗練化についてもう一度考え直す必要がある。
4　今回の実践では、中学年を中心に実践を進めたので、低学年や高学年の指導の在り方も研究し、系統性のある指導を行う必要がある。

○ 研究内容

【場の工夫】

難度別のコースや難度を調整できる場

【外部指導者と連携した指導】

児童一人一人に関わる時間の保証

【風船ゾーン】

友だちとパスしあいながら、前に進む

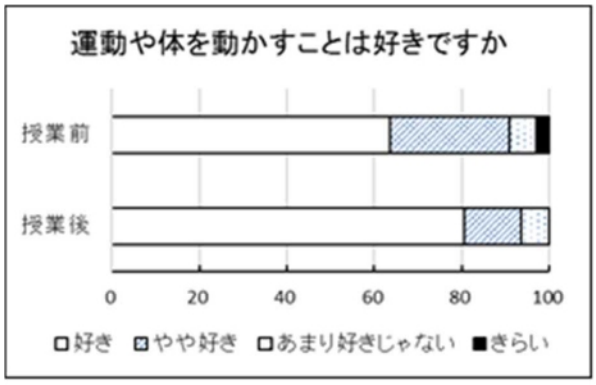
【学習カード】

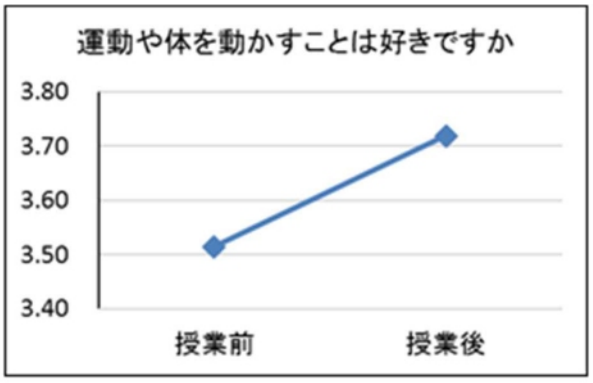
記録の高まりを実感させる学習カード

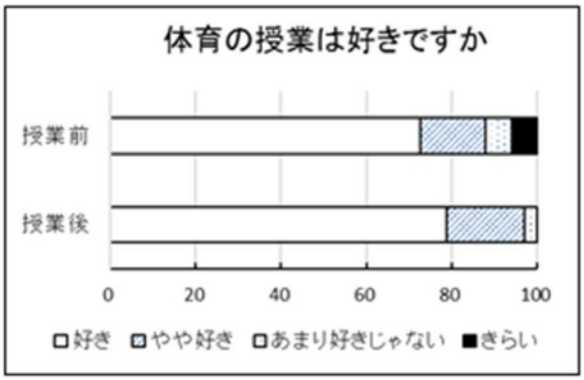
風船ゾーン			
手でタッチ		手以外でタッチ	
1回目の記録	ベスト記録	1回目の記録	ベスト記録
びょう 秒	びょう 秒	びょう 秒	びょう 秒

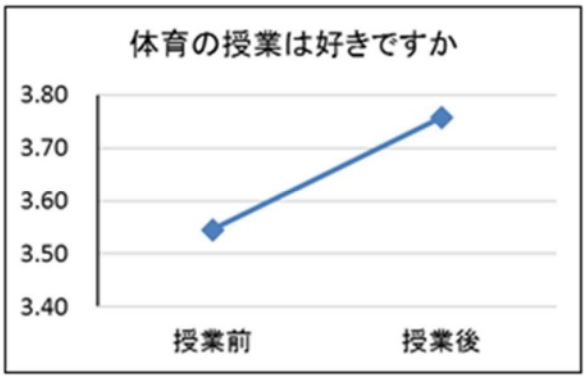
【児童の意識の変容】

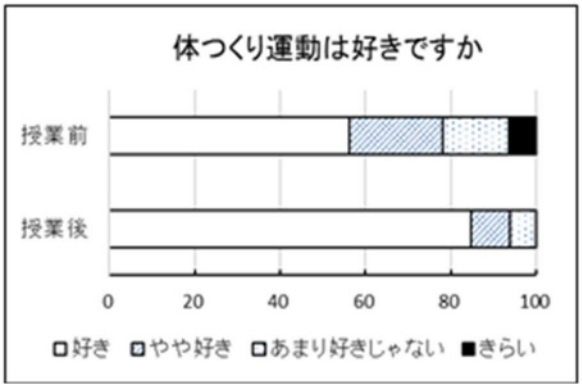
体育の授業と運動に対する児童の意識の変容について

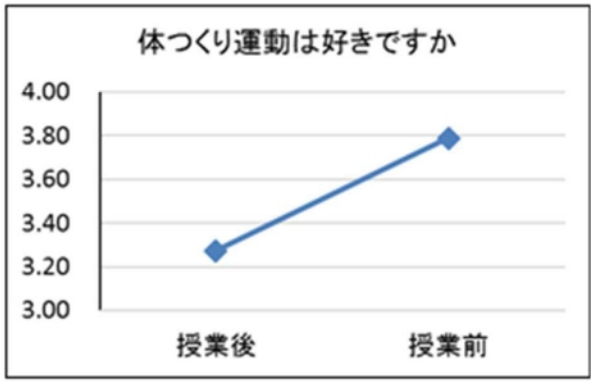












※　４件法アンケートの分布推移と得点推移

【今後の展望】

今後の体つくり運動の授業について

本実践では、中学年を中心に体つくり運動の授業を行った。今後は低・中・高学年の系統性を意識し、各学年のねらいに沿った授業を展開していく必要がある。それに伴い、自校のカリキュラムを見直し、年間計画を年度当初に提示し、各学年のねらいを説明することで、継続的・計画的に体つくり運動の授業に取り組んでいきたい。また、使用した学習カード、指導案、体つくり運動に関する資料をサーバーに保存し、いつでも誰でも使えるように共有化することで、学校全体の指導力向上につなげていきたい。

２．参考資料

事　務　連　絡
平成２９年６月２０日

各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課長
各都道府県私立学校主管課長　殿
附属学校を置く各国立大学法人担当課長

スポーツ庁政策課学校体育室

武道必修化に伴う武道の安全管理の徹底について（依頼）

中学校学習指導要領における保健体育科での武道必修化に伴う武道の授業の安全かつ円滑な実施について、平成２４年３月９日付け２３文科ス第９１８号「新しい学習指導要領の実施に伴う武道の授業の安全かつ円滑な実施について」により依頼いたしました。

平成２９年度も引き続き、中学校における武道の授業の実施に当たり、指導者、指導計画、施設設備・用具、事故発生時の対応等の指導体制について御確認いただくとともに、特に柔道を行う各学校については、安全管理の徹底を図る中で、保健体育科での本年度の柔道の授業の開始前に、別添について御確認いただき、より安全に指導できる体制にしていただくようお願いします。また、柔道の指導体制について御確認いただいた結果については、実施要領（別紙１）及び回答・集計要領（別紙２）に基づき、集計票を作成の上、平成２９年７月２８日(金)までに下記提出先まで御提出いただきますようお願いします。

このことについて、各都道府県・指定都市教育委員会学校体育主管課におかれては所管の学校及び域内の市区町村教育委員会等に対して、各都道府県私学担当主管課におかれては所轄の私立学校に対して、各国立大学法人担当課におかれては附属学校に対して、この趣旨について周知及び調査結果を取りまとめていただくとともに、適切な対応がなされるよう御指導をお願いします。

（本件問合せ先・調査提出先）

スポーツ庁政策課学校体育室
指導係　原、難波
電　話 03-6734-2674
ﾌｧｸｼﾐﾘ 03-6734-3790
電子ﾒｰﾙ　staiiku@mext.go.jp

別添

柔道の指導体制にかかる確認事項

（１）指導者について

イ）平成２９年度に柔道の授業を開始する時点※1において、一定の指導歴又は研修歴を持った教員が指導に当たることができる体制※2になっているか。

※１　実際に授業の開始を予定している時点であり、年度当初の４月とは限らない。

※２　例えば、複数の担当教員がいる学校で、一定の指導歴及び研修歴を持たない教員が単独で授業を担当する場合は「指導に当たることができる体制」に該当しないが、当該教員が今後授業開始までに指導をし得るような一定の研修を受ける予定の場合は該当すると考えられる。

ロ）イ）の体制が確保できない場合、適切な外部指導者の協力を得ることになっているか。

【留意点】

指導者が一定の指導歴又は研修歴を持たない教員である場合は、教育委員会や柔道関係団体にある人材データバンク等を活用し、退職警察官等外部指導者の協力を得ること。また、指導歴及び研修歴が浅い教員については、授業の開始時点までに十分に研修の機会を確保すること。

（２）指導計画について

３年間を見通した上で、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分に留意した計画となっているか。

【留意点】

問題点が判明した場合、指導計画（例えば単元計画等）を修正し、無理な計画での授業は行わないこと。また、必要に応じ、都道府県柔道連盟等の協力を得て、外部指導者によるアドバイスを受けること。

なお、「柔道の授業の安全な実施に向けて」（平成２４年３月）、学校体育実技指導資料第２集「柔道指導の手引（三訂版）」（平成２５年３月）を踏まえ、安全に柔道の指導を行う観点から特に以下の点について配慮が求められること。

①　３年間の指導を見通した上で、各学年で適切な授業時数を配当し、効果的、継続的な学習ができるようにすること。

第１学年及び第２学年においては、受け身の練習を段階的かつ十分に行った上で、指導する技や時期を定め、技と関連させた受け身の指導を行うこと。また、受け身がとれるようになった後、投げ技のかかり練習や約束練習など、段階的に練習を行うこと。その際、固め技について自由練習やごく簡単な試合で攻防の楽しさを味わわせることが考えられること。

さらに、第３学年においては、生徒の技能の上達の程度等を踏まえ、安全上の配慮を十分に行った状態で、使用する技や時間を限定するなどして簡単な試合までを計画することも考えられること。

②　生徒の学習段階や個人差を踏まえた無理のない段階的な指導を行うこと。

なお、学習指導要領の解説で示している「大外刈り」などの技については、あくまでも例示であり、記載された全ての技を取り扱わなければならないものではないこと。

（３）施設設備等について

施設設備及び用具の安全が確保されているか。特に体育館を使用する場合は、例えば畳のずれを防ぐ措置など柔道を行う場の安全が確保されているか。

【留意点】

十分でない場合は、早急に施設設備及び用具の安全の確保策を講じること。

（４）事故が発生した場合の対応について

事故が発生した場合の応急処置や緊急連絡体制など、対処方法について関係者間で認識を共有しているか。

【留意点】

十分でない場合は、早急に事故が発生した場合に対応できる体制を整備すること。